

平成 21・22 年度

小学校「社会」移行措置資料

年間指導計画作成のために

光村図書出版株式会社

平成 20 年 3 月 29 日に新しい学習指導要領が告示され、平成 23 年度より新教育課程が完全実施されます。これにともない、現行の学習指導要領に基づく小学校の教育課程は平成 22 年度（平成 23 年 3 月 31 日）まで継続され、平成 21 年度からは小学校の教育課程については移行措置により実施することが可能となりました。

本資料では、平成 21 年度版「社会」教科書を活用したうえで、新教育課程での学習内容と配当時間数を念頭においた年間指導計画を立案する際に参考となるよう作成したものです。今回の改訂の中心となる内容については「移行措置へのポイント」を掲げ、対応へのアイデアを示しました。時間数は現行の学習指導要領に基づいて配当してありますが、新学習指導要領における時間数の増加に関しては、「移行措置へのポイント」を重点的に取り扱うなどの対応が望まれます。

各学校におかれましては、学期制の違いや、地域、学校、児童の実態に応じて適宜修正を加え、本資料をお役立ていただければ幸いです。

平成 21・22 年度 小学校「社会」移行措置資料
年間指導計画作成のために

〈目次〉

3・4 年（上）	…… 3
3・4 年（下）	……10
5 年（上・下）	……18
6 年（上・下）	……29

3・4年(上) 年間指導計画例 (配当70時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
4月	2	わくわく どきどき 社会科って楽しいな	●社会科学習を開始するにあたり、問題解決的な学習の進め方や調べる方法、ノートの作り方などの概略をつかむことができるようにする。	
	24	1 たんけん、はっけん、わたしたちのまち (P8～45)	単元目標 自分たちのまちの地形、土地利用の様子や集落の分布、主な公共施設などの働き、交通の様子、古くから残る建造物などについて、見学・調査したり地図に表したりする活動を通して、人々の生活は自然環境や地域の様子と深い関係があることを理解できるようにする。 [指導要領内容(1)ア]	作成のポイント 3・4年は特に、地域の実情に応じた事例を選択し、子どもの興味・関心の広がり配慮し、内容の順序を工夫して、地域に密着した学習を展開するようにしたい。
	(1)	大導入(P8～9)	●自分たちが住むまちの航空写真を見ながら、まちの様子やまちに住む人々の様子などについて話し合い、自分がまちでしたいことや、まちのどんなところを詳しく知りたいのかを話し合う。	
4月・5月・6月	(15)	1 わたしのまちからみんなのまちへ (P10～29)	小単元目標 自分たちのまちの地形や土地利用の様子、集落の分布、お店や主な公共施設、鉄道や道路の様子、古くから残る建造物などを具体的に観察したり地図に表したりして、場所によって特色があることに気づくようにする。 [指導要領内容(1)ア]	作成のポイント 自分たちの生活の場であるまちを実際に歩き、観察したり調査したりすることにより、実際に自分の目で確かめることの大切さを感じ取れるようにする。さらに観察・調査した結果を、地図に表現したりする活動を通して、まちを面としてとらえ、空間的認識を広げられるようにする。 また、体験したことや観察によって生まれた疑問を、人にたずねたり、自分で調べたりして、みんなに分かるようにまとめ、それを伝え合う活動を通して、社会科学習の基礎的な方法を身につけさせたい。なお、本単元は、3・4年の地域学習を進めるうえでの基礎・基本となるので、調べた資料は、この2年間を通して活用するようにしたい。
		まちのすきなところ、ふしぎなところ	●自分たちのまちの中の好きな場所やもの、人などについて紹介し合うことを通して、まちについての新たな発見をしたり、興味を深めたりすることにより、まちの様子をもっと知りたいという意欲をもつ。	
		どこにあるのかな	●屋上からまちを眺め、白地図で確認しながら、興味をもった場所の位置を確かめてまちの様子をつかみ、見学への意欲をもつ。	
		まちたんけん大作せん	●自分たちが興味をもった所や行ってみたい所などを出し合い、コースを決める。 ●まちたんけんの方法や注意することなどを話し合う。 ●行きたい所ごとにグループになってまちたんけんの計画を立て、作戦書を作成する。	
	わくわくたんけんに出発だ ・北コース 川や工場が見たいな ・東コース 田んぼやはたけが見たいな ・えきのまわりコース どんなものがあるかな	●グループごとに作戦書をもとに見学したり、インタビューしたりする。写真に撮ったり、絵カードにかいたり、地図にかき込んだりする活動を通して、気がついたこと、きいて分かったこと、感じたこと、さらに知りたいことなどをまとめる。	【移行措置へのポイント】 新指導要領「内容の取扱い(1)」の新設により、「方位や主な地図記号」を扱う。これについては、最終的に方位や地図記号の必要性を理解させたいが、その過程では、ゲーム的な活動を用いるなどして、方位や地図記号に親しませる工夫も考えられる。	
	たんけん、はっけん、ほうこく会	●それぞれのグループで調べたまちの様子を整理し、報告会を開き、クラスのみんなに伝え合う。		
	地図にのこそう、みんなのはっけん	●調べてきたことをもとにして、まち全体の様子を示す大きな絵地図を作る。絵地図を分かりやすく作るためには何が必要かを話し合い、方位や地図記号などの必要性に気づく。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
6 月 ・ 7 月	(7)	さあ、絵地図を作ってみよう みんなで作った地図から、まちのふしぎが見えてきた 先生の地図とくらべてみよう	<p>●絵地図作りの手順を理解し、自分たちのまちの絵地図を作る。</p> <p>●できあがった絵地図を見て、自分たちのまちの自然環境、主な公共施設、鉄道や道路の様子、古くから残る建造物、店や集落の分布などの特色に気づき、さらに調べたいことを話し合う。</p> <p>●自分たちの作った絵地図と先生の作った地図を比べることにより、分かりやすい地図にするためには、地図記号が使われていることに気づき、主な地図記号の意味を理解する。</p>	
		2 たんけんから生まれたふしぎをおって (P30～43)	<p>小単元目標 自分たちのまちの交通、公共施設、古くから残る建造物、自然などの様子や広がりを調べ、地域の様子は場所によって違いがあることに気づくようにする。 〔指導要領内容(1)ア〕</p>	<p>作成のポイント まちたんけんを通して生まれた子どもたちの探究心をとらえ、内容的、地理的に広がりをもった調べ活動を行う。まちの交通や公共施設、自然の様子などを調べることで、それぞれの興味・関心を次単元以降につなげられるように、子どもの疑問や発言を大事にしたい。</p>
		もっと、もっと、知りたいことが出てきたよ	<p>●絵地図を作ってみて、疑問に思ったことやもっと知りたくなったことを出し合い、グループに分かれて、調べ計画を立てる。</p>	<p>【移行措置へのポイント】 まちたんけんの中で、まちに古くから残る建造物(神社寺院、伝統的な家屋などや門前町、城下町、宿場町などの伝統的な家並み)について調べ、「昔のくらし」につなげる視点をもたせるようにしたい。</p>
		<p>・地下鉄しらべたい</p> <p>・舞岡ふるさと村たんけんたい</p> <p>・みなとちょうさたい</p> <p>・行ってみたいところグループ</p>	<p>●自分たちのまちを通る主な鉄道について、資料で調べたり、駅員さんにインタビューしたりして、他地域と結ぶまちの交通の様子を知る。</p> <p>●駅の様子を調べ、だれにも使いやすいような工夫があることに気づく。</p> <p>●地下鉄沿線のまちの様子を調べることで、市の特徴をつかむ。</p> <p>●自分たちのまちでは地形を生かして田畑などでさまざまなものが作られていることや、自然を大切にしていることに気づく。</p> <p>●市の中心地で象徴的な場所でもある港周辺の様子を調べ、港を中心に発展してきた市の特色をつかむ。</p> <p>●だれにも住みよいまちづくりの工夫があることや、今でも新しいまちづくりが行われていることを知る。</p> <p>●自分たちのまちにはさまざまな目的をもった公共施設などがあり、人々に活用されていることに気づく。</p>	

3・4年(上) 年間指導計画例 (配当70時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
9月		ふしぎちょうさたい、はっぴょう会 (1) まちたんけんをして (P44) ※ ひろば お気に入り地図を作ろう (P45)	●調べたことを、分かりやすく工夫して発表し合い、まちの交通や公共施設などの様子を知る。 ●まちたんけんを中心とした学習を振り返り、心に残ったことを話し合ったり、記録したりする。 ●自分の興味をもとに絵地図を作る活動を通してまちを見直すとともに、絵地図作りの活動を深める。	
	27	2 まちの人たちのしごと (P46～91) (1) 大導入 (P46～47)	単元目標 地域の人々の販売や生産の仕事の工夫や特色を調べ、それらが自分たちの生活を支えていることに気づくことができるようにする。また、販売活動や生産活動を通して、自分たちの地域が広く国内外の他地域とかがわりがあることに気づくようにする。 [指導要領内容(2)ア、イ] ●写真や、まちたんけんでの活動などをもとに、まちの人たちの仕事、特に、販売や生産にかかわる仕事について、気づいたことや知りたいことなどを話し合う。	作成のポイント 地域の実情に応じて、農家、工場、商店などの事例から選択して取り上げる。本教科書では、スーパーマーケットと、パン工場の事例を取り上げた。また、スーパーマーケットの学習のつながりから、コラム的に農家の生産活動を取り上げた。地域の実態に応じて弾力的に指導していただきたい。本単元では、子どもたちの疑問を軸に、見学、調査、体験活動などを取り入れ、まちの人々と実感的にかかわり、調べたことを自ら表現していけるようにしたい。調べ活動を通して、仕事をする人々の工夫や、他地域とのつながりに気づき、地域の人々の販売活動や生産活動の様子には特色があること、自分たちの生活とも深いかがわりがあることを理解できるようにしたい。
9月・10月	(14)	1 わたしたちのまちのお店 (P48～75) みんなのよく行くお店 スーパーマーケットちょうさたい スーパーマーケットしらべ計画 スーパーマーケット見学に出発 しなもののしゅるいは、どのくらいあるのかな スーパーマーケットしらべはっぴょう会 さらにしらべたいことが出てきたよ ・どんなしごとがあるのかな	小単元目標 みんなのよく行くお店の一つであるスーパーマーケットについて、人が集まる理由を予想し、予想に基づき見学して調べ、スーパーで働く人の工夫や、他地域とのかがわりについて理解できるようにする。さらに、消費者も品質や価格などを考慮して購入していることを理解できるようにする。 [指導要領内容(2)ア、イ] ●みんなはどんなお店で買い物をするか、それはどうしてかを話し合う。 ●スーパーに人が集まる理由について、予想を立て、どのようにしたら確かめられるか話し合う。 ●予想を検証しつつ、見学の視点や方法、注意点などを話し合い、グループに分かれ、スーパーに行く計画を立てる。 ●どうしてみんながスーパーに行くのかを、予想した観点によって、グループで見学したり、インタビューしたりして、確かめる。 ●みんながスーパーに行く理由について、「いろいろな品物があること」「新鮮さ」「安さ」「便利さ」などの予想した観点のグループごとに、調べたことや、新たに気づいたことをまとめて発表し合う。 ●発表を通じて生まれた疑問や思ったことを出し合い、それぞれグループごとに調べる計画を立てる。 ●店の人にインタビューするなどして、スーパーでは多くの人がさまざまな仕事をしていることに気づく。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
		[上巻]		
		<p>・リサイクルコーナーって、何のためにあるの</p> <p>・もうどう犬のステッカーを見つけたよ</p> <p>・しなものは、どこから来るのかな</p> <p>こんなお店もあるよ</p> <p>※ キュウリは、どんなふうで作られているのかな 北見さんにインタビュー 温室で新せんなキュウリを見つけたよ はやいな、はやい。とっからスーパーに出るまで</p>	<p>●店の人やお客さんにインタビューをして、リサイクル活動をはじめ、スーパーがさまざまに環境に配慮していることや、お客さんが協力していることに気づく。</p> <p>●店の人にインタビューなどをして、スーパーではだれもが買い物をしやすいように、車椅子を用意したり、専用の駐車場を設けたりして工夫していることに気づく。</p> <p>●スーパーの品物の生産地を調べ、絵地図にまとめることを通して、品物は他の地域や外国からも来ていることに気づく。</p> <p>●みんながスーパーに行く理由について調べて考えたことを話し合う。</p> <p>●スーパー以外に利用している、商店街のお店やコンビニエンスストア、手作りの店などについて調べ、消費者がそれぞれの店の特色を考え利用していることを理解する。</p> <p>●自分たちのまちでは、自然環境を生かし、さまざまに工夫して野菜づくりが行われていることを知るとともに、その野菜がどのようにスーパーに運ばれるか、どんな地域に出荷されるかななどを調べることで、他地域とのつながりにも気づくようにする。</p>	<p>作成のポイント 本教材ではスーパーの学習のつながりから農家の仕事を取り上げた。地域の実態に応じて、漁業、林業、牧畜等、自然環境を生かした生産の様子と販売の仕事との関係を取り上げることが考えられる。これらを重点的に取り上げる場合、次の単元の時間を削減するなど時間数は弾力的に運用したい。</p>
10月・11月・12月	(11)	<p>2 パン工場たんけんたい (P76～89)</p> <p>近くの工場で作られているパン</p> <p>パン工場に行きたいな</p> <p>パン工場の見学に出発 パンができるまで きかいだけでは、できないし ごともあったよ</p> <p>パン工場のことを、もっとしらべよう</p> <p>・こんなしごとをする人もいたよ</p>	<p>小単元目標 学校の近くのパン工場を見学し、工場で働く人々が工夫をしている点や、原料の入手先、販売の方法などについて調べて、その仕事の特色や他地域とのかかわりを理解できるようにする。 〔指導要領内容(2)ア、イ〕</p> <p>●スーパーをはじめいろいろな店で売られているパンが、学校の近くの工場で作られていることを知り、パン工場に興味をもつ。</p> <p>●パン工場ではたくさんのパンをどうやって作っているのか考え、見学の視点を作り、パン工場見学の計画を立てる。</p> <p>●パン工場を見学し、パン工場では衛生や安全に気をつけて、仕事を分担し、大量のパンを作っていることに気づく。また、人々の仕事の様子を調べ、その工夫や努力に気づく。</p> <p>●パン工場を見学して分かったことを整理し、話し合う。</p> <p>●さらなる疑問についてグループごとに、見学の計画を立て調べる。</p> <p>●パン工場にはパンを製造する人だけでなく、事務をとる人、パンの検査をする人、パンを運搬する人などがいることを調べ、まとめる。</p>	<p>作成のポイント 指導要領では、農家、工場、商店などの事例の中から選択して学習するようになっていいる。本教科書ではスーパーの学習に関連して、コラム的に農家を、そして本教材で工場を取り上げた。地域の実態に応じて、パン工場以外のものも適宜選択していただきたい。 2学期制の場合は、本小単元から開始することが考えられる。</p> <p>作成のポイント グループごとに調べたことを分かりやすくまとめ、発表し合う時間を設定しておく。</p>

3・4年(上) 年間指導計画例 (配当70時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
1月・2月		<p>・どこから通ってくるの</p> <p>・小むぎこのふるさを見つけたよ</p> <p>・できたパンはどこへ</p> <p>たくさんのパンができるまで</p> <p>(1) おれいのカードをおくろう (P90)</p> <p>※ ひろば ざいりょうをそろえて、パン作りにちょうせんしよう(P91)</p>	<p>●パン工場には、他地域から通勤している人もいることに気づき、どのような地域から来ているのかまとめる。</p> <p>●パンの原料の小麦が外国から輸入されていることなどについて調べ、まとめる。</p> <p>●製品がどんな地域に出荷されているか調べ、まとめる。</p> <p>●グループごとに調べたことをまとめ、発表し合う。分かったことや考えたことを話し合い、おいしいパンを大量に作り、販売するために働く人々の工夫や努力、他地域とのつながりなどを理解する。</p> <p>●協力していただいた人たちへの感謝の気持ちや調べて分かったこと、学習後の思いなどを記したカードを、写真やイラストを用いて工夫して作り、スーパーやパン工場の人々に送る。</p> <p>●これまでの学習を生かして、家でのパンの作り方を調べ、店を選んで工夫して材料を購入し、パンを作ることを通して、工場のパン作りと比べながら実感的に学習を振り返る。</p>	
	17	3 昔っておもしろい (P92～119)	<p>単元目標 古くから残るくらしにかかわる道具や、それらが使われていたころのくらしの様子を調べること、人々のくらしが変化してきたことや、それぞれの時代の人々の知恵について考えられるようにする。また、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事に関心をもち調べることで、地域の発展やまとまりを求める人々の願いに気づき、地域への愛情を深めるようにする。</p> <p>[指導要領内容(5)ア、イ]</p>	<p>作成のポイント</p> <p>まちたんけんなどで調べたことなどをもとに、地域のくらしの変化や文化財、行事について調べるようにする。</p>
	(1)	大導入 (P92～93)	<p>●自分たちのまちの今と昔の様子を比較したり、昔の道具を見ることを通して、くらしの移り変わりや、人々の願い、古くから伝わることを知りたいという意欲をもつ。</p>	<p>【移行措置へのポイント】</p> <p>新指導要領に「地域に残る」が「地域の人々が受け継いできた」に改められた。ここでは、文化財の内容や年中行事のいわれ、それらを保存し継承するための地域の人々の取組などを具体的に調べ、自分たちも地域の伝統や文化を受け継いでいく一員なのだということに気づかせたい。</p>
(11)	1 みんなでさがそう、昔のくらし (P94～111)	<p>小単元目標 古くから身近にあるくらしにかかわる道具を調べ、それぞれの時代の人々のくらしの様子を理解し、人々のくらしが変わってきたことや、いつの時代にも人々の工夫や努力があったことを考えることができるようにする。</p> <p>[指導要領内容(5)ア]</p>	<p>作成のポイント</p> <p>まちたんけんなどをきっかけに興味をもった、古くから残るくらしにかかわる道具の様子や使い方を、地域の博物館や郷土資料館を見学したり、実際に使ってみたりして調べ、それらを使っていたころの人々のくらしの様子や工夫を考えさせたい。身近な人々の子どものころのくらしの様子と自分たちのくらしの様子を比べ、年表にまとめるなどの作業を通して、人々の生活が変わってきたことを理解させたい。</p>	
		<p>昔のせんたくにちょうせん</p> <p>おばあさんに教えてもらおう</p>	<p>●洗濯機のポスターを見て気づいたことを話し合い、昔の洗濯の様子への関心を深める。</p> <p>●地域の人に教えていただきながら昔の洗濯を体験し、人々が工夫をしながら生活していたことに気づくとともに、昔のくらしについての関心を深める。</p>	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
		[上巻]		
		昔の道具をしらべよう	●昔のくらしや道具について、それぞれが興味のあることをあげて話し合い、昔の道具について調べる計画を立てる。	
		みんなの道具しらべカードをあつめてみよう	●それぞれが調べてきたことをカードなどにまとめて報告し合い、気づいたことや考えたことを話し合う。	
		道具のことが分かってきたよ	●調べた道具の移り変わりを見て、人々のくらしの変化や、それぞれの時代の人々の生活の工夫について気づく。身近な郷土資料館に行ったり、インタビューをしたりして、昔の道具についてさらに調べる計画を立てる。	
		きょう土しりょうかんに行こう	●郷土資料館に行き、いろいろな道具を使ってみたり、地域の人に話を聞いたりして、昔のくらしの様子について実感的に理解する。	
		おじいさん、おばあさんが子どものころ おとうさん、おかあさんが子どものころ 今のわたしたちのくらし	●おじいさん・おばあさん、お父さん・お母さんなどから話を聞くなどして、そのころの人々のくらしの様子を調べ、自分たちのくらしと比べる。	
		おじいさん、おばあさんにききました	●調べて出てきた疑問をもとに、もう一度おじいさんやおばあさんに話を聞く。	
		おじいさん、おばあさんが子どものころ せんそうのあったころ	●おじいさん・おばあさんに話を聞いて、戦争のころの子どもたちやくらしの様子について調べたり、すいとん作りを行ったりして、そのころの時代の様子について考える。	
		年表を作ろう	●これまでにきいたこと、調べたことなどをもとに、分かりやすい示し方を考えて、道具やくらしの変化を年表にまとめる。	
		年表ができあがったよ	●年表作りを通して、道具や人々のくらしの様子の変化について考えたことや感じたことを出し合う。また、自分たちのくらしを振り返り、これからのくらしがどう変わっていくかを考える。	
3月	(4)	2 おはやしにちょうせん (P112～116)	小単元目標 地域の人々が受け継いできた行事について調べたり、実際に参加したりして、それらを伝えてきた人々の願いに気づくことができるようにする。 〔指導要領内容(5)イ〕	【移行措置へのポイント】 祭りや年中行事など、地域の人々が受け継いできたこと、また、それを守っている人々の思いや願いに触れ、地域を大切にしようとする人々の気持ちに共感する心を育てるとともに、行事などに自分たちも参加することで、自分も地域の一員であることに気づくことができるようにしたい。
		おはやしを見たよ	●自分たちの身近にある行事(おはやし)について興味をもち、体験したいという意欲をもつ。	

3・4年(上) 年間指導計画例 (配当70時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
		わたしたちもちょうせんしょう おはやしのことを知りたいな 子どもおはやしたい、たんじょう	<p>●自分たちなりに挑戦して、おはやしの難しさに気づき、おはやしや保存会の人たちの活動への興味を深め、保存会の練習を見学する計画を立てる。</p> <p>●保存会の人たちの練習を見学し、話を聞いて、おはやしへの理解を深めるとともに、おはやしを受け継いできた保存会の人たちの思いに気づく。</p> <p>●見学したことをもとに活動を深め、成果を発表する。体験活動や保存会の人たちとの交流から、おはやしに込められた人々の願いを知り、自分自身がその継承者であることに気づくことができる。</p>	
	(1)	のこそう、わたしたちのまちのれきし (P117)	●自分たちのまちと同様に、市内のほかの地域にも人々が大切にしてきた行事があることを調べ、まとめる。	
	※	ひろば まちの昔を見つけよう (P118～119)	<p>●昔の地図と今の地図を見比べて、気づいたことを話し合い、昔のまちの様子への興味を深め、今も残るまちの昔探しをする。</p> <p>●1年間の学習を振り返り、自分たちのまちがどんなまちだったかを考える。</p>	
		ひろげる ふかめる ※ もうどう犬って、知ってる？ ※ わたしたちのまちのもの作り [横浜スカーフ] ※ わたしたちのまちって、どんなまち [柏尾川の桜ものがたり]		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
4月	※	わくわくどきどき 社会科って楽しいな	●3・4年上巻に引き続き、社会科学習を進めるうえで基礎・基本となる調べ方・学び方の例を見て、問題解決的学習の進め方をつかむ。	作成のポイント 子どもたちが学習の折に触れて、冒頭のこのページに立ち返ることができるようにしたい。
	※	すてきな人と出会おう	●写真から、これからの学習で出会う人々をイメージして、社会科学習への意欲をもつ。	
4月	22	4 さわやか、すこやか、みんなの暮らし (P10～39)	単元目標 廃棄物の処理や飲料水の供給など地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持・向上のための事業を市(区、町、村)が協力して、計画的に行っていることを理解するとともに、日常生活における資源の利用の仕方や環境保全について関心をもつことができる。 〔指導要領内容(3)ア、イ〕	【移行措置へのポイント】 新指導要領に「良好な生活環境の維持・向上」という文言が加わった。水・電気・ガスの安定供給と廃棄物の的確な処理が人々の生活にとって不可欠であり、そのためにさまざまな人々がかかわっていることを気づかせたい。
	(1)	大導入(P10～11)	●ごみの焼却工場や浄水場の写真を見て、気づいたことを話し合い、自分たちのくらしとどのようななかかわりがあるかについて調べていこうとする意欲をもつ。	
4月・5月	(12)	1 ごみをへらそう (P12～27) みんなの出すごみ ごみはどこへ行くのかな 見学の計画を立てよう しょうきゃく工場の見学 ごみしょ理の様子 見学からもどって しげんになるごみのゆくえ 生まれかわるごみ	小単元目標 市では、組織的・計画的にごみ処理を行っていることを理解するとともに、ごみの減量化に向けて自分たちには何ができるかを考え、実践する態度を養う。 〔指導要領内容(3)ア、イ〕 ●野球場のごみの量から、市全体のごみの量に関心を持ち、ごみの行方や処理の方法を調べていこうとする意欲をもつ。 ●ごみステーションを観察し、ごみの行方を調べることを通して、ごみ処理の方法をさらに詳しく調べようとする意欲をもつ。 ●ごみステーションを観察して分かったことをもとに、焼却工場を見学する視点について話し合い、見学の計画を立てる。 ●焼却工場を見学して、働いている人にインタビューを行う。 ●焼却工場の見学を行い、ごみがどのように処理されているかを理解する。 ●焼却工場を見学して分かったことをまとめ、さらに知りたくなったことや調べたくなったことを話し合う。 ●資源選別センターの見学を行い、資源ごみのリサイクルについて理解するとともに、センターの人々が協力して活動していることをとらえる。 ●資源選別センターで調べてきたことをもとに、ごみの減量やリサイクルの流れについてまとめ、ごみの減量の重要性に気づく。	作成のポイント 廃棄物の処理については、ごみか下水いずれか一方を取り上げる。ごみ処理は多くの人々が協力して行っていること、それらの活動が人々の健康な生活を支えていることを理解できるようにするとともに、ごみを減らすことの重要性に気づかせたい。 まず、ごみを減らすこと、そして出てしまったごみは資源としてリサイクルするなど、自分自身にできることは何かを考え、実践する姿勢を育てたい。地域にあるリサイクルセンターなどで行われていることや地域の人々のリサイクル活動などを事前に調べておき、指導計画を立てるようにしたい。 【移行措置へのポイント】 新指導要領に「良好な生活環境」という文言が加わった。廃棄物の処理は人々の健康な生活を維持するために不可欠であることを理解させたい。新指導要領「内容の取扱い(5)」の新設により、廃棄物の処理や水の確保などに関連して「法やきまり」を扱う。これについては、「自分たちには何ができるかを考え、実践する態度を養う」とこととの関連性のもとに触れさせたい。

3・4年(下)年間指導計画例 (配当85時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント	
[下巻]					
5 月 ・ 6 月	(8)	ごみをへらすために	●ごみの減量化のために、どのような方法があるかを調べ、自分たちの生活を振り返る。		
		わたしたちのごみげん量作戦	●自分たちにもできるごみの減量について話し合い、実践する。		
		いろいろなごみしゅう集	●みなとみらい地区で行われているごみ収集の方法を調べ、ごみの処理にも新しい工夫が行われていることをとらえる。		
			2 つくられる水 (P28～37)	小単元目標 飲料水の供給は、市の事業として行われていることや他の市(区、町、村)、県(都、道、府)などとの協力によって事業が進められていることを理解するとともに、飲料水は健康な生活のために欠かせないものであり、水資源の確保が大切な問題であることをとらえられるようにする。 〔指導要領内容(3)ア、イ〕	作成のポイント 飲料水、電気、ガスのいずれかを取り上げる。水道水は蛇口をひねれば出てくるものとして、とすれば無関心になりがちである。しかし、水の確保、浄水、下水それぞれに人々の努力があり、水がつくられていることや、そのことによって自分たちの生活が支えられていることを理解させたい。
			たくさん使われる水	●自分たちが毎日の生活の中で、どのようなときにどのくらいの水を使うのか、また市全体ではどのくらいの水を使うのかを調べ、水道の水について詳しく調べていこうとする意欲をもつ。	【移行措置へのポイント】 新指導要領に「良好な生活環境」という文言が加わった。飲料水が様々な人々への努力によってつくられることを学習する中で、自分たちのまわりの住みよい環境が維持されていることに気づかせたい。また、節水や節電など、資源の有効利用についても扱い、限りある資源をむだにしない姿勢を育てたい。 新指導要領「内容の取扱い(5)」の新設により、廃棄物の処理や水の確保などに関連して「法やきまり」を扱う。これについては、「自分たちにできることを話し合い実践に結びつける」ことに関連して触れさせたい。
			じゃぐちの向こうにあるものは	●水道局の資料をもとに、水道の水がどこから来るかを調べ、水道水が遠くの川やダムからさまざまな施設を通して自分たちの家や学校まで届けられていることをとらえる。	
			じょう水場は水の工場	●水が通ってくる施設をとらえる中で、浄水場の役割について調べようとする意欲をもつ。 ●浄水場の見学を行い、水道水がつくられていることを理解するとともに、安全な水をつくるために人々が工夫や努力を行っていることをとらえる。	
			ダムができると	●ダムの役割について調べ、水の確保のために多くの地域や人々が協力していることを理解する。	
			使われた水はどこへ	●下水道の仕組みについて調べ、使われた水がどのように処理され、再利用されているかを理解する。	作成のポイント 下水処理については、その仕組みに深入りしないように注意する。ここでは、環境保全や水資源の有効利用の視点から扱うことが望ましい。
		(1)	わたしたちの節水大作戦 (P38)	●水を大切に使うために自分たちにできることを話し合い、実践に結びつけるようにする。	
	※	ひろば 水はめぐる (P39)	●水の循環の様子をまとめ、すごろくのかたちにする。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
6月・7月	20	5 安全, 安心, みんなのくらし (P40~65)	<p>単元目標 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守るための工夫について, 関係諸機関が連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていることを見学したり, 調査したり資料を活用したりして調べ, 人々の安全な生活は, そうした機関の働きやそこに従事している人々の工夫や努力によって保たれていることを考えるようにする。 〔指導要領内容(4)ア〕</p>	<p>作成のポイント 地域の人々の安全を守る工夫については, 火災, 風水害, 地震などの中から選択して取り上げる。本教科書では火災を取り上げた。本教材では, 消防署の大切な役割は, 消火活動だけではなく, 防火活動にあることや, 普段から関係諸機関の協力体制が組まれていることをつかませたい。また, 身近な事例を通して学ぶことで, 児童一人ひとりの, 防火意識を高められるようにしたい。</p>
	(1)	大導入(P40~41)	●写真を見て, 人々の安全なくらしを守るための活動について調べていこうとする意欲をもつ。	
	(9)	1 火事からみんなを守れ (P42~53)	<p>小単元目標 火災が発生したときの消防署や関係機関の働きと協力の仕組みを見学したり, 資料から調べたりして理解するとともに, 消防署や関係機関で働く人の工夫や努力, 地域の人々の協力などによって, 安全な生活が営まれていることを考えることができるようにする。 〔指導要領内容(4)ア〕</p>	
		今日は消火訓練	●消火訓練を見て, 自分たちの学校には, 火事に備えてどんな設備や施設があるかについて関心をもつ。	
		学校のぼう火せつびをさがそう	●火災に備えて, 学校の防火設備やその配置がどうなっているのか調べる。	
		見学の計画を立てよう	●火災が起きたとき, 消防署ではどのような活動するのか, 見学して調べていく計画を立てる。	
		消ぼうしよを見学しよう	●消防署の見学を行い, 市内の各所に消防署, 消防出張所が設けられていること, 消防署の人たちは緊急の火災にいつでも対応できるように準備していることなどを知る。	
		消防しよの人の仕事を調べよう	●消防署の人たちが, 火災を想定して, さらに火災を防ぐために, 日ごろどのような努力をしているのかを知る。また, 119番通報による連絡の仕組みや, 連絡する際に大切なことを知る。	
		まちの消火せんやぼう火水そうを調べよう	●地域にある火災に備えてつくられた消火栓や防火水槽などの設備を調べ, 地図にまとめる。	
		消ぼうだんのことをききに 行こう	●地域の人々の消火・防火活動について調べる。消防団の方へのインタビューなどを通して消防団について調べる。	【移行措置へのポイント】 消防団に加え, PTAの活動や「子ども110番の家」などを扱うことで, 地域の人々の事故防止のための協力について理解させたい。
		火事からみんなを守ろう	●火事の発生原因や被害を調べ, 防火の必要性を理解し, 自分たちにできることを考える。	
		市民の命を守る救急車	●消防署の仕事の一つである救急活動について調べる。	
		きょうみをもったことを調べ てみよう	●消防について学習する中で興味・関心を抱いたことを各自が調べ, 発表し合う。	

3・4年(下)年間指導計画例 (配当85時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
9月	(9)	2 交通事故からみんなを守れ (P54～62)	小単元目標 事故や盗難が発生したときの、警察署や関係機関の働きと協力の仕組みを、見学したり、資料から調べたりして、地域の安全は警察署を中心とした関係機関と地域の人々の協力的な活動によって保たれていることを考えることができる。 [指導要領内容(4)ア]	作成のポイント 事故などが起こったときの警察の対応と体制について理解するとともに、事故防止の視点を確立したい。警察や地域の人々の事故防止や盗難防止のための活動を見学や調べ活動を通して、実感的にとらえる指導計画を立てるようにしたい。
		あつ、あぶない	●事故の現場や道路に広がって歩く児童の写真から、事故の恐ろしさや危険性について考える。	【移行措置へのポイント】 新指導要領「内容の取扱い(5)」の新設により、災害や事故の防止に関連して「法やきまり」を扱う。事故の防止については、登下校のきまりや交通事故の防止に関する法やきまりなどを取り上げることが考えられる。
		ここがあぶない	●学校の周りで危ないと思う場所について話し合い、地図にする。	
		交通安全子ども会議	●危ないと思う場所の交通量や様子を調べ、まとめ、発表する。	
		わたしたちの安全を守るしせつを調べよう	●事故防止のために、自分たちでできることを話し合う。	
		まちの人たちの協力	●地域にある事故を防ぐための施設について調べ、まとめる。	
		もしも交通事故が起きたら	●事故を防ぐために地域の人々はどんな活動をしているのか調べる。	
		おまわりさんの仕事	●事故が起きたときの連絡の仕組みを調べる。	
		だれもが安心して暮らせるまちに	●交番のおまわりさんの仕事について調べ、地域の安全を守るために普段からさまざまな活動をしていることに気づく。	
		(1)	交通かんせいセンターの仕組み (P63)	
※	ひろば さがしてみよう。 わたしたちを守ってくれるもの (P64～65)	●渋滞緩和などのための、交通情報センターの仕組みを調べる。		
		●地域にあるくらしを守るための防災施設を調べ、発表する。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
10月	10	6 入り海を水田に (P66～81)	単元目標 吉田新田の開発を事例に、地域の開発や文化の発展に尽くした先人の働きについて、見学したり年表にまとめたりして調べ、当時の人々のくらしの様子、地域の生活の向上に尽くした先人の願いや苦心を考えるようにする。 〔指導要領内容(5)ウ〕	作成のポイント 本単元では、地域の開発、教育、文化、産業などの発展に尽くした先人を扱う。先人の人となりや事跡を追って指導計画を立てることになるが、先人の考えが現在までどのように受け継がれているかに焦点を当てるようにする。地域の博物館を活用したり、郷土の歴史に詳しい人から話を聞いたり、実際に見学・観察を行ったりするなどの活動が必要とされる単元である。 2学期制の場合、本単元から始めることが考えられる。
	(1)	大導入(P66～67)	●現在の吉田新田の航空写真を見て、気づいたことを話し合い、吉田新田について興味をもてるようにする。	
	(8)	1 入り海を水田に (P66～79)	小単元目標 約350年前に入り海を埋め立てて、新田を切り開いた先人の働きを調べて、その当時の苦勞、工夫、人々の願いを理解する。 〔指導要領内容(5)ウ〕	
		ここが海だったの	●大導入の写真と古い地図を比べて、まちの変化をとらえ、吉田新田について調べていこうとする意欲をもつ。	
		海をうめ立てた吉田勤兵衛	●地域の人に話を聞く活動を通して、吉田新田をつくった吉田勤兵衛に関心をもつ。	
		吉田新田を歩く	●吉田新田の地域を実際に歩いて、疑問に思ったことを話し合い、詳しく調べていくための計画を立てる。	
		この入り海をうめよう	●郷土史家に話を聞く活動や図書館の資料を調べる活動を通して、埋め立てが行われる前の地域の様子や埋め立てが行われるようになった理由を理解する。	
		工事の様子	●図書館の資料から当時の工事の様子を調べたり、土運びの作業を体験したりする活動を通して、当時の人々の苦勞や工夫について考える。	
		つつみが流される	●郷土史家の話から吉田新田完成までの経緯をとらえ、工事が一度失敗したにもかかわらず、再度埋め立てに努力した人々の思いについて考える。	
		しっばいしたけいけんを生かして	●図書館や博物館の資料をもとに、吉田新田が完成に至るまでの埋め立て工事の方法には諸説あることを知り、当時の人々の新田をつくりたいという強い願いを理解する。	
		吉田新田のかんせいと村のくらし	●資料をもとに、吉田新田の完成によって、地域の人々のくらしがどのように変わっていったのかを調べる。	
		今に生きる吉田新田	●吉田勤兵衛の子孫にあたる人の話を聞く活動を通して、当時の人々の願いや努力が自分たちの現在のまちやくらしにつながっていることを理解する。	
	(1)	まちの発てんをねがった人々 (P80)	●地域の発展に尽くした人々について調べ、まとめる。	
	※	ひろば まちを、見つめてみよう(P81)	●吉田新田から広がった地域を実際に歩いて、地域の変化や地域に昔から受け継がれているものなどについて知ったことを発表する。	

3・4年(下)年間指導計画例 (配当85時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
11月	33	7 広いね、わたしたちの県 (P82~125)	<p>単元目標 県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)の位置を地図帳や大型の日本地図などを活用し確かめ、県全体の地形や主な産業、都市や交通網、産業や地形条件から見て特色ある地域の人々の生活などを調べて、それらの特色を理解するとともに、県内の人々の生活は、国内の他地域や外国ともかかわりがあることに気づくようにする。 [指導要領内容(6)ア、イ、ウ、エ]</p>	<p>【移行措置へのポイント】 「47都道府県の名称と位置」の学習については、特に先行実施が求められている。地図帳や日本地図(白地図)を活用し、各都道府県の名称や位置を確認させることに加え、都道府県の花、特産物、地理的特徴などと結びつけて理解させることで、興味付けをはかれるようにしたい。また、ゲーム的な活動を用いるなどして、都道府県の学習に親しませる工夫も考えられる。</p>
		(1) 大導入(P82~83)	<p>●箱根駅伝の地図を見ながら、県内にあるまちや人々のくらしの様子に興味をもち、調べようとする意欲をもつ。</p>	
		(3) 1 もっと知りたい、わたしたちの県 (P84~91)	<p>小単元目標 県(都、道、府)の位置や地形、土地利用や交通網の様子などについて、地図などの資料を活用して調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。 [指導要領内容(6)ア、イ、エ]</p>	
		選手はどんな所を走るのかな 県のいろいろな所を知りたい	<p>●地図や写真を見て、箱根までの距離、交通、高低などを調べ、県全体の地形や交通網の特色をとらえる。また、調べ活動を通して、等高線、方位、地図記号、縮尺、土地利用図について理解する。 ●県の位置や県庁所在地について調べるとともに、パンフレットなどの資料を集め、県内のさまざまな地域を調べていくための意欲をもつ。</p>	
11月・12月	⑩	2 いろいろな所、いろいろなくらし (P92~117)	<p>小単元目標 産業や地形条件から見て特色ある地域を取り上げ、産業の様子や人々の生活の様子を調べ、自分たちの住む県(都、道、府)の特色を考える。 [指導要領内容(6)ウ]</p>	<p>作成のポイント 実際に見学するほか、資料で調べたり、手紙や電話、インターネットなどを使って交流するなどして人々のくらしの様子、思いや願いをつかみ、自分たちの住む県の特色を考えさせたい。</p>
		海と太陽のめぐみいっぱい の三浦市 (P92~103)	<p>目標 三浦市について調べ、三浦市の人々が地形や自然条件を生かしながら、漁業や農業などの産業に取り組んでいることを理解する。</p>	
		魚も野さいも有名なまち	<p>●写真を見たり体験を話し合ったりして、漁業、農業とともに盛んな三浦市を調べようとする意欲をもつ。</p>	<p>【移行措置へのポイント】 新指導要領では「地形条件から見て特色ある地域」の学習が5年に移行し、ここでは「地域の資源を保護・活用している(県内の特色ある)地域」を扱う。 事例としては「伝統的な工業などの盛んな地域」に加え、「豊かな自然」「歴史ある建造物や街並み、祭りなどの伝統や文化」など、地域の資源を保護・活用し、人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光など産業の発展につとめている地域を扱うことが想定されている。それを踏まえ、三浦市を事例に扱う際も、例えば地域の財産といえる「海の自然」や「名物のマグロや野菜作り」を受け継ぎ、さらなる工夫を加えまちの発展をめざしている姿に力点を置くことなどを意識したい。</p>

3・4年(下)年間指導計画例(配当85時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
1月	⑥	なぜ「マグロのまち」なのか	●写真を見たり、体験を話し合ったりして、三浦市の三崎港はマグロで有名なことをとらえる。その理由をみんなで予想し合い、調べて確かめていこうとする意欲をもつ。	
		マグロはどこから運ばれてくるの	●実際に三崎港を見学したり、資料で調べたりして、三崎港は地形の条件に恵まれた良港で、世界中のマグロが運ばれてくるのだということを理解する。三浦市の他の漁港についてさらに調べていこうとする意欲をもつ。	
		海の自然を生かして	●地図や資料で調べたり、電話などで取材したりして、三浦市には、三崎港のほかにも漁港があり、近海でとれる魚を主に扱っていることを知る。また、海の自然を生かしたまちづくりが行われていることをとらえ、さらに調べていく意欲をもつ。	
		海とふれ合う、海と楽しむ	●地図や資料で調べたり、電話などで取材したりして、三浦市は、「海業」という、海の自然を大切に守りながら、産業を盛んにしようとするまちづくりに取り組んでいることを理解する。	
		三浦のダイコンは全国でも有名	●資料を集めたり、電話などで取材したりして、三浦市は全国でも有数のダイコンの産地であることや、1年間で、同じ畑にさまざまな野菜を育てるなど、自然条件を生かして農業が取り組まれていることを理解する。	
		健康でおいしい野さいを作る	●実際に農家に取材したり、資料などで調べたりして、農家の人たちが、どのような思いや工夫のもとにダイコンなどの野菜作りに取り組んでいるのかをとらえる。	
1月	⑦	ゆたかな自然を生かして	●三浦市について学んだことを、みんなで協力して土地利用図にまとめる。また、学習の中でそれぞれ、さらに詳しく知りたいと思った話題を調べ、発表し合う。	
		水と森にかこまれた清川村 (P104～109)	目標 清川村に住む人々の生活や土地の様子を資料などをもとに調べ、清川村が地形的に高い所に位置することや、人々が地形条件に適応して工夫しながら暮らしていること、自然を大切に守ろうとしていることなどを考えることができる。	
		清川村は、どんな所かな	●体験を話し合ったり、写真を見たり、地図などを調べたりして、清川村はどんな所であるかをみんなで予想し、調べて確かめていこうとする意欲をもつ。	
		森にかこまれた清川村のくらし	●地形図や土地利用図を見て、清川村の土地利用の様子を調べ、山林が多く、高い所に位置することを理解するとともに、インターネットなども活用して人々の生活の様子を調べ、自然を大切に暮らしていることを理解する。	
1月・2月	⑦	自然を守るためにしていること	●資料を集めたり、電話などで取材したりして、清川村の自然を守るための取り組みを調べる。清川村について学んだことを、村の小学校の子どもたちあての手紙にまとめ、交流する。	作成のポイント 実際に行くなどして調べる。鎌倉彫そのものの意味をとらえさせるとともに、地域の特色や伝統を継承している人々の努力に気づくようにする。
		わざを受けつぎ、今に生かす (P110～117)	目標 伝統的な工芸品である鎌倉彫を取り上げ、伝統を受け継いできた人たちの努力や思いをすることができる。	
		「鎌倉ぼり」って知っているかな	●実物を見たり体験を話し合ったりして、鎌倉彫が、古くから鎌倉に伝わる優れた伝統工芸品であることをとらえ、その由来などについて図書館で調べてみようとする意欲をもつ。	

3・4年(下) 年間指導計画例 (配当85時間)

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[下巻]				
2 月 ・ 3 月	(3)	100年間のほししょう書をつけた人がある	●鎌倉彫には「100年間の保証書」をつけた作品があることを知り、なぜそうした保証書をつけたのか、見学などで調べていこうとする意欲をもつ。	
		しりょう館には、なるほどがいっぱい	●資料館を見学して、鎌倉彫の作り方や材料について調べるとともに、100年間の保証書のついた碁器を見て、製作の様子について詳しく知りたいという意欲をもつ。	
		しんけんな横顔[後藤さんのエぼうを見学] クラスにもどって	●鎌倉彫の工房を見学して、職人さんたちの努力や工夫を理解する。 ●100年間の保証書をつけた理由を中心に調べたことを話し合い、鎌倉彫を受け継いできた人たちの思いや願いを理解することができる。	
		手作りのすばらしさをつたえているまち	●見学のお礼の手紙を書いたり、鎌倉彫が伝わる、鎌倉のまちの様子をまとめたりする。	
	(2)	3 わたしたちの横浜市 (P118～121)	小単元目標 県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)の地理的な位置関係や、地形、土地利用、交通の様子、外国とのつながりについて調べる。 [指導要領内容(6)ア、ウ、エ]	
		わたしたちのまちは、どんなまち 交通の様子 外国とのつながり	●地図やさまざまな資料から、横浜市の土地の様子や使われ方、住む人や働く人の数を調べ、白地図や表などを使ってまとめ、特徴をつかむ。 ●横浜市の鉄道や道路などの交通の様子について調べる。 ●横浜市の姉妹・友好都市との交流活動などについて調べ、人々の生活は外国ともかかわりのあることに気づく。	
	(2)	4 わたしたちの県についてまとめよう (P122～123)	小単元目標 県内の地形や土地の使われ方、産業の様子などを白地図などにまとめたりして調べ、県の特色を考えるようにする。 [指導要領内容(6)イ、ウ、エ]	
	(1)	神奈川県ってどんな所かな	●土地の様子や土地の使われ方、農業や工業の様子をまとめて、神奈川県概要をつかむ。	
	(1)	行ってみよう、見てみよう (P124)	●県の学習全体を振り返り、行ってみたい所を選び、資料で調べて計画を立てる。	
	※	ひろば お気に入りの場所をみんなにつたえよう (P125)	●県の中で見つけた、楽しい場所、きれいな景色など自分たちの気に入った場所とその理由を紹介し合う。	
	※	ひろげる ふかめる		
	※	カラスとわたしたち		
	※	さいがいから身を守ろう		
	※	地いきにつくした昔の人を見つけよう		
	※	川辺に生まれた自然		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
4月		※ わくわくどきどき 社会科つて楽しいな	●問題解決的学習をさらに深めていくために、多様な調べ方や学び方の方法を見て、これからの学習活動の方向をつかむ。	作成のポイント 子どもたちが学習の折に触れて、冒頭のこのページに立ち返ることができるようにしたい。
		※ 地図から分かる日本	●5年の地理学習、産業学習において、必要に応じて地図を活用できるようにする。	作成のポイント 各単元の学習において、資料として何度も活用できるようにしたい。
	16	1 わたしたちの住む日本 (P10～41)	単元目標 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、日本の国土の位置や領土、地形や気候の概要、地形・気候条件から見て特色ある地域の人々の生活について、地図や地球儀、その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。 〔指導要領 内容(4)ア〕→新〔指導要領 内容(1)ア〕	作成へのポイント 国土の位置や地形、気候などの地理的特色を学習する際には、知識学習に偏らないように、自分たちの住む地域の事例と関連させたり、くらしと結びつけたりして学習を展開するようにしたい。さらに産業に関する学習においても活用できるようにしたい。
	(1)	大導入(P10～11)	●衛星から写した写真を見て気づいたことを話し合い、自分たちの住む日本について調べていこうとする意欲をもつ。	
	(4)	1 国土の様子をしょうかいしてみよう (P12～19)	小単元目標 地図や資料をもとに、自分たちの住む日本の位置や広がり、周辺の国々、地形や気候の特色について調べ、国土の地理的な特色について理解する。 〔指導要領内容(4)ア〕→新〔指導要領 内容(1)ア〕	【移行措置へのポイント】 「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置」が加わったことで、地図帳だけでなく地球儀をより活用していくことが求められる。
		日本の国土の特色はなんだろう	●外国人の先生に日本を紹介する活動を通して、日本の特色について意外に知らないことを認識し、国土の様子を調べるための計画を立てる。その際、地球儀で日本の位置を確認する。	【移行措置へのポイント】 ここでの学習に連動して、新指導要領で示された「ユーラシア」「北アメリカ」「南アメリカ」「アフリカ」「オーストラリア」「南極」の6大陸、「太平洋」「大西洋」「インド洋」の3海洋、および「主な国」の名称と位置をおさえることができる。「主な国」としては、近隣諸国を含めユーラシア大陸周辺から10か国、北アメリカ、南アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリアの各大陸から2か国程度が想定されている。）
		海に広がる日本	●資料をもとに、日本の位置や国土の広がり、及び周辺の国々について調べる。その際国旗について触れ、それぞれの国の国旗を尊重しなければならないことを理解する。	
		山の多い日本	●地図や写真等の資料を活用して、山地や平野、川の分布を調べ、日本の地形の特色を理解する。	
		四季のある日本	●資料をもとに日本の気候について調べ、その特色を理解するとともに、地理的な条件が気候に影響を与えることをとらえる。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
4 月 ・ 5 月	(10)	2 気候を生かした地域のくらし (P20～39)	小単元目標 地形や気候に特色のある地域のくらしについて調べ、地理的な条件によって地域の気候や自然が異なることを理解し、人々がそれぞれの地域の自然環境に適應するための工夫を行いながら生活していることをとらえる。 [指導要領内容(4)ア]→新[指導要領 内容(1)イ]	作成のポイント 気候に特色のある地域の学習においては、写真資料やビデオなどの視覚的資料、インターネットを通じた現地とのコミュニケーションなど、多様な資料を駆使して実感的にとらえられるようにする。
		気候のちがう沖縄県と新潟県	●写真やグラフを比較して、沖縄県と新潟県の気候の違いをとらえ、暖かい地域と雪の多い地域について調べていこうとする意欲をもつ。	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「自然条件から見て特色ある地域」として、従来の「気候条件」に「地形条件」が加わった。それぞれの条件から見て特色ある地域を、一つずつ取り上げ学習することが想定されている。その際、自分たちの住む地域の自然条件から見て、相違点や類似点などが比較しやすい地域を選択するとよい。
		あたたかい沖縄県のくらしを調べてみよう	●地図や資料、電子メールなどを活用して、暖かい地域について自分の知りたいことを調べ、沖縄県の位置や自然の特色をとらえる。	
		気候に合わせたくらしのくふう	●図書館の本やインターネットを活用して、沖縄県の気候に合わせたくらしの工夫について調べ、沖縄県では、昔も今も台風や暑さに備えてさまざまな工夫が行われていることを理解する。	
		屋根の上にあるもののひみつ	●貯水タンクをきっかけにして、沖縄県では雨が多いにもかかわらず水が不足しがちであったことをとらえ、水不足に備えたさまざまな工夫が行われていることを理解する。	
		あたたかい気候を生かした農業	●沖縄県の農業について調べ、台風や日照りに強いサトウキビ作りが中心であることや、冬の暖かさを利用した花や野菜の生産が盛んになってきたことなどを理解する。	
		ゆたかな自然と文化	●沖縄県で観光産業が盛んな理由を調べ、沖縄県には美しく豊かな自然があり、中国や東南アジアの影響を受けた独特の文化が発達していることを理解する。	
		沖縄県の歴史と人々の願い	●沖縄県の歴史について調べ、戦争の傷跡や現在も残されている問題を理解するとともに、沖縄県の人々の願いについて考える。	
		雪の多い新潟県十日町市のくらしを調べよう	●資料をもとに十日町市の位置や気候をとらえ、雪の多い地域のくらしについて調べる計画を立てる。	
		雪からくらしを守るくふう	●資料やインターネットを活用して、十日町市で行われている雪からくらしを守るための工夫や交通を守るための設備、除雪対策について調べる。	
雪とともに生きるまち	●雪を生かした地域の産業やくらしについて調べ、十日町市の人々の願いを考える。			
5 月	(1)	寒い地域のくらしのくふう (P40)	●国土単元を振り返り、気候に特色のある地域の事例として寒冷地の北海道根室市のくらしについて調べる。	
		※ ひろば しょうかいカードを作ろう (P41)	●これまでに学習してきたことをもとに、沖縄県や新潟県に住む小学生に自分たちの住む地域を紹介するカードを作る。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
5月・6月	22	2 自然のめぐみを生かして (P42～81)	単元目標 資料や地図・グラフをもとに日本の食料生産について調べ、農業や水産業が国土の自然を生かして営まれていることや自分たちの食生活を支える重要なものであることを理解する。さらにこれらの産業に従事している人々の工夫や努力に気づき、これからの食料生産のあり方に関心をもつことができるようにする。 〔指導要領内容(1)ア、イ、ウ〕→新〔指導要領内容(2)ア、イ、ウ〕	
	(1)	大導入 (P42～43)	●写真を見て気づいたことを話し合い、自分たちの生活と食料生産とのかかわりについて調べていこうとする意欲をもつ。	
	(10)	1 伊藤さんの米作り (P44～59)	小単元目標 専業農家の伊藤さんを通して庄内平野の米作りについて調べ、おいしい米を作るために土地や気候の条件を生かし、土作りや水管理などさまざまな工夫を行っていることや地域の農家と協力しながら環境に配慮した生産を行っていることを理解するとともに、伊藤さんたち農家の人々の願いについて考えるようにする。 〔指導要領内容(1)イ、ウ〕→新〔指導要領内容(2)イ、ウ〕	
		米ぶくろを集めて調べよう	●米袋を集めて米の産地調べを行い、米作りが盛んな地域ではどのように米作りを行っているのかを調べていこうとする意欲をもつ。	作成のポイント 米袋は事前に用意しておきたい。学習の過程では体験的活動として米作りを行う農家の方にインタビューをするなどの活動を取り入れたい。
		山形県庄内平野の自然の様子	●資料をもとに庄内平野の自然について調べ、米作りに適した条件の土地であることを理解する。	
		伊藤さんの1年間の仕事	●米袋に名前があった伊藤さんの1年間の仕事の様子を調べ、米作りの概要をとらえる。	
		大切な土作りと水管理	●おいしい米をたくさん作るための工夫を調べ、伊藤さんは土作りや水管理などの工夫を行っていることを理解する。	
		おいしさをたもつくふう	●収穫した米をおいしく保存する工夫について調べ、地域の農家が共同でカントリーエレベーターをつくり、いつでもおいしい米を出荷できるようにしていることを理解する。	
		おいしい米をとどけるために	●庄内平野で作られた米の出荷先について調べ、米がトラックや鉄道、フェリーを使って日本の各地に運ばれていることを理解する。さらに、伊藤さんは消費地まで出かけ、消費者のニーズにこたえる努力をしていることをとらえる。	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「生産地と消費地を結ぶ運輸の働き」が、「運輸などの働き」という表現に改められた。運輸に限らず、客のニーズなどの情報収集、情報活用について触れることも可能である。「伊藤さんの消費者のニーズにこたえる努力」をこの視点つなげて学習することも考えられる。
		もっとおいしい米を作るために	●庄内平野で行われる米の品種改良について調べ、各地の農業試験場では、その地域の気候に合ったよりおいしい米を作り出すための研究を重ねていることを理解する。	
	伊藤さんたちがめざすこれからの農業	●伊藤さんの話や資料をもとに、農家を取り巻く問題をとらえ、伊藤さんのめざす農業について考える。		
	本楯地区の循環型農業	●本楯地区の循環型農業について調べ、伊藤さんが地域の仲間と協力して環境に配慮した農業を行っていることを理解する。		
	地域の特色を生かした農業	●日本全国で野菜や果物、畜産物の生産が盛んな地域について調べ、分かったことをまとめる。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
6月・7月	(8)	2 水産業がさかんな銚子港 (P60～75)	小単元目標 資料をもとに水産業が盛んな地域について調べ、日本の水産業の特色や自分たちの生活とのかかわりを理解する。さらに、水産業に従事する人々の工夫や努力に気づき、水産資源の保護・育成に関心をもつ。 [指導要領内容(1)ウ]→新[指導要領 内容(2)ウ]	作成のポイント 導入では、給食の献立なども参考にして、水産物が、自分たちの食生活を支えているものの一つであることに気づかせたい。
		たくさん食べられている魚	●資料をもとに、自分たちの食生活と水産物のかかわりを調べ、水産業の盛んな銚子港について調べていこうとする意欲をもつ。	
		港や市場のくふう	●銚子港の見学に行き、港の設備について調べ、漁港には水揚げされた魚の保存や出荷などのためにさまざまな工夫があることをとらえる。	
		銚子沖の漁場の特色	●銚子港で水揚げ量の多い理由について調べ、銚子沖には潮目があることや利根川から養分のある水が流れ込むことからよい漁場になっていることを理解する。	
		魚のとりのくふう	●魚のとりの工夫を調べ、魚の種類によってとる方法や船の仕組みが違うことを理解する。	【移行措置へのポイント】 「生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」に関連して、「価格や費用」を取り扱うことが示された。食料生産では、生産や収穫などにかかる費用に加え、輸送などにかかる費用が価格に影響を与えるということを理解させたい。
		魚が店にとどくまで	●魚が漁港から消費地までどのように運ばれるかを調べ、運輸の発達により、遠距離でも、新鮮な状態で短時間のうちに運べるようになったことを理解する。	
		水産業にたずさわる人々のかかえる問題	●資料をもとに水産業に携わる人々の抱える問題を調べ、水産業を続けていくためには、水産資源の保護・育成が重要であることを理解する。	
		「とる」漁業から「つくり育てる」漁業へ	●水産資源の保護・育成のための取り組みの具体的な例として、栽培漁業について調べる。	
もう一つの育てる漁業—養殖漁業—	●つくり育てる漁業の一例として、愛媛県の宇和海で行われている養殖漁業について調べ、養殖漁業の特色や問題点を理解する。			
7月	(2)	3 これからの食料生産と食生活 (P76～78)	小単元目標 これまでの学習や資料をもとに、日本の食料生産の抱える問題をとらえ、これからの食料生産や自分たちの食生活のあり方について、自分なりの考えをもつ。 [指導要領内容(1)ア、イ]→新[指導要領 内容(2)ア、イ]	作成のポイント これまでの学習を整理して、日本の食料生産の抱える問題をとらえ、食料生産の大切さを理解させたい。さらに今後の食料生産や食生活のあり方について、自分なりに考えていけるようにしたい。
		外国にささえられるわたしたちの食事	●資料をもとに自分たちの食生活が海外からの輸入に依存していることを理解し、日本の食料生産の抱える問題をとらえる。	
		おいしくて安全な食料の生産をめざして	●これまでの学習をもとに、これからの食料生産や自分たちの食生活のあり方について考える。	
		(1) 農村のくらしを体験してみよう (P79)	●食料生産単元の振り返りとして、東京都武蔵野市で行われているセカンドスクールの事例を取り上げ、農村のくらしについて興味や関心をもつ。	
※		ひろば 昔からのちえ—棚田— (P80～81)	●棚田について調べ、狭い土地を有効に生かしてきた昔からの知恵や努力について理解する。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
9月	22	3 人と自然にやさしい製品をめざして (P82～123)	<p>単元目標 我が国の工業生産の様子について地図や写真、統計などの資料を活用したり、調査したりして具体的に調べ、工業生産の現状や特色などをとらえ、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。 〔指導要領内容(2)ア、イ、ウ〕→新〔指導要領 内容(3)ア、イ、ウ〕</p> <p>(1) 大導入(P82～83)</p> <p>●写真を見て話し合い、わたしたちの生活と工業生産のかかわりや、生産に携わる人の工夫や努力について調べていこうとする意欲をもつ。</p>	
9月・10月	(13)	1 これからの自動車産業 (P84～107)	<p>小単元目標 我が国の工業生産の中でも代表的な自動車生産について、生産に従事する人々が、時代の要請に応じた技術開発をはじめ、生産を高める工夫や努力をしていることを見学したり、資料を活用したりして調べ、国民生活を支える工業生産の意味について考えることができるようにする。 〔指導要領内容(2)ウ〕→新〔指導要領 内容(3)ウ〕</p> <p>あつたらしいな、こんな自動車</p> <p>●自分自身の体験や、身近にいる大人たちの話などから、今、どのような車が求められ、つくられているのかをとらえ、自動車をつくる人たちの思いや工夫を調べていこうとする意欲をもつ。</p> <p>技術をみがいて、より安全な車を</p> <p>●自動車生産に携わる人々は、交通事故を起こさない車、事故の衝撃から人命を守る車をつくるために研究を重ねていることを理解する。</p> <p>人と地球にやさしい車をつくる</p> <p>●自動車生産に携わる人々は、限られた資源であるガソリンに依存しない車、有害な排気ガスを出さない車など、環境に配慮した新技術の開発に取り組んでいることを理解する。</p> <p>自動車工場で調べたいこと</p> <p>●自動車生産に携わる人々の思いや工夫を知る中で感じたこと、実際に自動車の構造を観察したり、資料を調べたりする中で疑問に思ったことなどから、自動車工場見学への視点をそれぞれノートにまとめる。</p> <p>人と環境にやさしい工場をめざして</p> <p>●見学を通して、自動車工場は、敷地内の緑化や、有毒な物質を浄化する排水処理、リサイクルの工夫など環境に配慮した取り組みを行っていることを理解する。</p> <p>技術を生かし、人を生かして</p> <p>●自動車組み立ての過程を、各自が事前にまとめた見学の視点に即してとらえながら、例えば機械化されている所と人が直接作業している所の違いなど、興味・関心をもった点をノートにまとめる。</p> <p>もっと知りたい、自動車づくりのことを</p> <p>●自動車組み立ての過程を知る中で、疑問に感じたことを調べる。工場見学を振り返り、例えば環境に配慮した工夫、部品会社との協力など、さらに詳しく調べたいことをまとめる。</p>	<p>作成のポイント ここでは、自動車工場見学を学習過程に組み入れている。もし、不可能な場合は写真や映像資料を活用したり、手紙や電話などで生産者に直接取材したりして、学習ができるだけ具体的になるようにする。</p>

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
		[上巻]		
		「ここにしかない」技術を求めて	●エアバッグをつくる会社を例に、自動車会社は、理想の製品をつくるために、優れた技術をもった会社と協力をしながら部品をつくっていること、こうした部品をつくる会社は全国に点在していることを理解する。	
		命を守る製品をつくる	●エアバッグをつくる会社を例に、より安全性の高い、信頼のおける製品をつくるための工夫や努力、海外にも工場を構え生産を展開している様子などを理解する。	
		完成した自動車のゆくえ	●完成した自動車が注文客のもとに届くまでの過程や工夫を調べる。	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「工業生産を支える貿易や運輸の働き」が、「運輸などの働き」という表現に改められた。食料生産同様、客のニーズなどの情報収集、情報活用などについて触れることも考えられる。さらに、運輸などに関連して、「価格や費用」を取り扱うことが示された。製品の輸送経路や輸送手段を調べる中で、製造過程で生じる費用に加えて輸送費用もかかるため、それらが価格に影響を与えていることを理解させたい。
		各地へ運ばれる自動車	●自動車が全国各地に運ばれていく様子を調べ、製品の輸送と運輸業とのかかわりをとらえる。	
		船で運ばれる自動車	●資料をもとに、自動車の海外への輸出について調べる。	
		自動車の輸出がへっているわけ	●資料を通して、自動車の輸出減少の背景には、日本の自動車会社が海外で現地生産するようになった事情があることを理解する。	
		自動車のリサイクルの流れ	●自動車のリサイクルについて調べ、自動車産業が環境保護や資源の有効利用に力を入れていることを理解する。	
		人と自動車、これからのくらし	●自動車生産に携わる人たちは、製品が人々の生活の中でよりよく活用されていくために、さまざまな工夫をしていることを調べ、理解する。	
10月	(7)	2 日本の工業の特色 (P108～123)	小単元目標 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布、工業生産を支える貿易の働きについて、地図や各種資料を活用して調べ、我が国の工業生産の現状と特色をとらえ、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることが分かる。 〔指導要領内容(2)ア、イ、ウ〕→新〔指導要領内容(3)ア、イ、ウ〕	
		くらしを変える、くらしが変わる	●写真や資料、身近な大人たちの話などから、わたしたちの生活と工業製品との深いかかわりや、工業製品の発達の様子をとらえ、日本の工業の特色を調べていくための視点をもつ。	
		工業の種類と生産額の変化	●資料から、身の回りの工業製品を分類する中で工業の種類を知り、日本はどんな工業が盛んなのか、今日に至るまでどのような変化を遂げてきたのかを調べる。	
		工場の集まっている所	●資料から、工業の盛んな地域の分布を調べ、工業の種類と立地条件のかかわりを理解する。	

5年 年間指導計画例（配当90時間）

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
		大工場と中小工場	●資料から、大工場と中小工場のつながりを調べ、日本の工業生産における中小工場の役割をとらえる。新聞記事などから中小工場についての話題を集め、調べていく意欲をもつ。	<p>作成のポイント</p> <p>工場の見学が可能であるならば、工場の規模や設備、仕事ぶりなどを、自動車工場と比較してとらえさせたい。また、職人さんたちの話を実際にうかがったり、仕事の様子を見たりすることで、「職人の技」のすばらしさを体感させたい。</p>
		最新の技術をささえる職人の技	●中小工場に受け継がれている職人の技術が、先端技術を支えているとともに、日本の工業の今後の発展を担っていることを理解する。	
		日本の工業と世界	●資料から、日本の工業は原料を輸入する加工貿易によって発展してきたこと、近年では製品の輸入も増えてきていることをとらえ、外国との深い結びつきを理解する。	
		世界に送られる日本の工業製品	●資料から、工業製品の輸出先を調べ、日本の工業生産の特徴と外国の結びつきを理解する。	
		これからの貿易	●資料から、日本の貿易の特徴をとらえ、他国との協力の必要性など、これからの課題について考える。	
(1)		ものをつくる人たちの声にふれて (P122)	●工業生産の学習を振り返り、生産者の工夫や努力などを知る中で、心に残ったことをまとめ、伝え合う。	
※		ひろば 未来の工業製品を考えよう (P123)	●工業生産の学習を振り返り、現状の問題を解決し、未来への夢を実現するための工業製品をそれぞれ考え、発表し合う。	
		ひろげる ふかめる		
※		食料の安全性をたしかめる取り組み		
※		最新の技術と食料生産		
※		一人ひとりの使いやすさを求めて		
※		ロボットと人間との未来		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
11月	※	わくわく どきどき 社会科って楽しいな	●問題解決学習の基本となる多様な調べ方や学び 方の方法を見て、これからの学習活動の方向をつか む。	作成のポイント 子どもたちが学習の折に触 れて、冒頭のこのページに立 ち返ることができるようにした い。
	※	わたしが守りたい自然を見 つけよう	●写真を見て、日本の自然の豊かさ、大切さについ て考えるようにする。	
	16	4 情報が結ぶ世界 (P10～37)	単元目標 日常生活や産業活動の中で、情報をどの ように入手し、役立てているのかについてインタ ビューや見学、インターネットなどで調べ、情報化の 進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていること や、情報の適切な収集、活用、発信が大切であること を考える。 〔指導要領内容(3)ア、イ〕→新〔指導要領 内容(4) ア、イ〕	【移行措置へのポイント】 「通信などの産業」が「情報 産業」という表現に改められ た。また、「これら(放送、新聞、 電信電話などの)産業に 従事している人々の工夫や 努力」が削除される一方、 「情報化した社会の様子と国 民生活とのかかわり」が加え られた。「情報産業」の学習 よりも、情報化した社会の現 実をふまえたうえで、情報の 有効利用を考えさせていく学 習展開を工夫したい。
	(1)	大導入(P10～11)	●写真を見て話し合い、情報の働きや情報伝達の仕 組みについて調べていこうとする意欲をもつことが できる。	
(8)	1 情報をつくる (P12～25)	小単元目標 我が国の情報産業について、テレビ放 送局を資料を活用して調べたりして、国民生活とのか かわりなどを考えるようにする。また、情報化した社 会の様子を調べ、情報の進展が及ぼす影響や、情報 を有効に活用する大切さを考える。 〔指導要領内容(3)ア、イ〕→新〔指導要領 内容(4) ア、イ〕	【移行措置へのポイント】 新指導要領においては、情 報産業に携わる人々の仕事 の内容を詳細に学習するこ とは求められていない。 ここでは、今後の情報化社 会において一人ひとりが意 識することが求められる。 「情報を発信する側に求めら れる役割や責任の大きさ」に 気付かせる糸口となるように 取り組ませたい。	
	テレビ番組らんから見える もの	●テレビ番組欄調べから、友だちや、身近にいる大 人たちがどのような番組をよく見ているかを調べ、 ニュース番組がテレビ放送の中で大きな役割を占め ていることを理解する。		
	ニュース番組をくわしく見て みると	●ニュース番組を見て、情報を分かりやすく伝えるた めにさまざまな工夫がされていることをとらえ、ニュ ース番組作りについて調べていく意欲をもつ。それぞ れ調べたいことをノートにまとめる。		
	ニュース番組ができるまで —取材と編集—	●見学や資料を通して、取材、編集など、ニュース番 組が作られるまでの過程を調べ、みんなが求める情 報を正確に伝えるために、さまざまな人たちが努力を 重ねていることを理解する。		
	みんなに分かりやすく伝え るために	●見学や資料を通して、みんなに分かりやすく情報を 伝えるための、アナウンサーたちの工夫や努力、「字 幕放送」などの取り組みについて調べて理解する。		
	世界を結ぶ放送	●資料を通して、世界各国に情報が伝えられる仕組 みや、海外でのテレビ放送の実情を理解する。		
	テレビ放送のこれから	●データ放送や双方向性をもった番組への取り組み など、テレビからの情報が視聴者の必要と要求に応 じて変化していることを理解する。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
11月・12月	(6)	新聞の伝える情報	●新聞が読者に届くまでの過程を、テレビのニュース放送の場合と比べ、その特徴をとらえる。新聞の情報の利点を、身の回りの人たちから調べ、二つのメディアのそれぞれよいところを活用していこうとする姿勢をもつ。	
		2 情報を生かす (P26～35)	小単元目標 各産業や日常生活の中での情報活用の工夫を調べ、自分たちの目的や必要に応じて情報を生かしていく姿勢が大切であることを理解する。 〔指導要領内容(3)ア, イ〕→新〔指導要領 内容(4)ア, イ〕	【移行措置へのポイント】 新指導要領で示された「情報化した社会の様子」「情報化の進展」をとらえていく学習に直結する内容である。移行措置としては、この第2小単元を重点化して取り組むことが考えられる。
		だれが、どんな情報を	●身の回りの人や、これまで産業の学習などで出会った人たちから、どのような情報手段をどのようなかたちで活用しているのかを調べていこうとする意欲をもつ。	
		求める人に、求められる情報を	●農業や自動車産業に従事する人の、コンピュータなどによる情報活用をとらえ、産業の中での情報活用についてさらに調べてみようとする意欲をもつ。	【移行措置へのポイント】 産業における情報活用については、食料生産、工業生産それぞれの単元でも扱うことが可能となっている。相互の関連性を意識したい。
		コンビニエンスストアの情報活用	●コンビニエンスストアでの情報活用のさまざまな工夫をとらえ、販売業での情報活用について、さらに調べてみようとする意欲をもつ。	
12月	(1)	テレビ電話での診察	●福島県葛尾村で行われている、テレビ電話を使った遠隔医療のことを知り、双方向性をもった新しい情報機器が、暮らしの中でどのように生かされているか、さらに調べてみようとする意欲をもつ。	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「情報化した社会と国民生活とのかかわり」をとらえていく事例として、「情報ネットワークを有効活用して公共サービスの向上に努めていく教育、医療、防災」が想定されている。ここで取り上げた遠隔地医療などもその好例といえる。
		暮らしの中での情報	●携帯電話やパーソナルコンピュータでの情報利用を利点・問題点の両面からとらえ、主体的に活用していくことが大切であるということを理解する。	
		情報を発信する計画を立てよう (P36)	●情報の学習全体を振り返り、伝え方にも工夫して自分たちの情報を発信する。	
	※	ひろば ビデオ番組を作ろう (P37)	●自分たちのクラスの情報を、協力してビデオ番組にまとめる。	
1月	14	5 人と自然がともに生きる国土 (P38～63)	単元目標 資料をもとに、工業生産に伴う公害や身近な生活公害について調べ、健康で安全な生活を営むためには環境対策が非常に重要であることを理解する。さらに森林の働きについて調べ、国土の保全のために重要な役割を果たしていることを理解する。 〔指導要領内容(4)イ, ウ〕→新〔指導要領 内容(1)イ, ウ〕	作成のポイント 工業生産と環境問題は切り離せないテーマである。身近にある公害や環境を守る取り組みを具体的に調査・観察する活動を取り入れ、自分たちの生活を見つめ直すようにしたい。
		(1) 大導入(P38～39)	●絶滅が心配される動・植物の写真を見て話し合い、自分たちの身の回りの自然や環境の問題について考え、調べていこうとする意欲をもつ。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
2月・3月	(5)	1 公害とのたたかい (P40～49) 水俣病とねばり強いたたかう人々 新しい「水俣」をめざして 水俣市のまちづくり 大気のごれと自動車 身近に起きている公害	<p>小単元目標 資料をもとに水俣病について調べ、被害を受けた人々の苦しみとその後の水俣市の環境問題への取り組みを理解するとともに、健康で安全な生活を営むためには、公害を防ぎ環境を守ることが大切であることを理解する。さらに、自動車と大気汚染のかかわりや身の回りの生活公害について調べ、自分たちの生活の仕方と環境とのかかわりについて考えを深めることができるようにする。 〔指導要領内容(4)イ〕→新〔指導要領 内容(1)イ〕</p> <p>●写真等の資料から水俣病について関心をもち、資料をもとに水俣病の被害や経緯を調べる。</p> <p>●資料をもとに水俣病患者の被害や苦しみを理解し、水俣の人々の願いについて考える。</p> <p>●水俣市のまちづくりについて調べ、水俣市では水俣病の教訓を生かして環境問題に重点をおき、環境マイスター制度などのさまざまな取り組みを行っていることを理解する。</p> <p>●自動車の排出ガスと大気汚染のかかわりについて調べ、自分たちの生活に身近な自動車が環境に大きな影響を与えていることや大気汚染を防ぐためにさまざまな対策が考えられていることを理解する。</p> <p>●身近な生活公害について調べ、自分たちの生活の仕方が環境に大きな影響を与えていることを理解する。さらに、環境を守るために、自分にできることを考える。</p>	
	(7)	2 命をささえる森林 (P50～61) 白神山地のブナ林 水をたくわえる森 白神山地を守る取り組み	<p>小単元目標 森林の働きについて調べ、森林資源は生活環境の保全、自然災害の防止、水資源の涵養など重要な働きをもつことを理解する。さらに国土の自然に関する環境問題について調べ、環境を守るためにさまざまな取り組みが行われていることを理解する。 〔指導要領内容(4)ウ〕→新〔指導要領 内容(1)ウ〕</p> <p>●写真を見ながら話し合い、森林の働きについて調べようとする意欲をもつ。</p> <p>●白神山地を例にして、森林の水を蓄える働きや災害防止に役立つ働きなどを理解する。</p> <p>●白神山地の例をもとにして、森林の動植物の息とのかかわりや森林を守るための取り組みについて理解する。</p>	<p>作成のポイント ここでは可能な限り、直接体験を取り入れたい。森林の働きについても、調査、観察、実験などを通して実感できるようにしたい。環境問題が世界の解決すべき大きな問題の一つであることも、自分の問題としてとらえられるようにしたい。</p> <p>また、総合的な学習の時間において「環境問題」をテーマにした場合、本教材を有効に活用するようにしたい。</p> <p>【移行措置へのポイント】 新指導要領では、ここで「自然災害の防止」について取り上げることが求められている。森林の保全が、自然災害の防止にも結びつくことに触れ、他の災害防止への取り組みなどに展開していくことも考えられる。</p>

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
		森林をつくり育てる	●林業について調べ、森林を育てるには長い時間がかかることや林業に携わる人々がさまざまな工夫や努力を行っていることを理解する。	
		森林の働き	●資料をもとに自分たちのくらしと森林のかかわりについて調べ、森林の働きをまとめる。	
		自然を取りまく問題	●資料をもとに、日本国内の自然や森林に関する問題について調べる。	
		みんなで自然を守る	●トトロの森や藤前干潟などの例から自然環境を守るために行われている取り組みについて調べ、多くの人々の協力によって自然を守る活動が進められていることを理解する。	
	(1)	日本各地の自然を守る取り組み (P62)	●環境単元を振り返り、資料をもとに、日本各地で行われている自然を守る取り組みを調べ、まとめる。	
	※	ひろば ポスターを作って発表しよう (P63)	●環境問題について興味をもったことをさらに調べ、ポスターを作る。	
		ひろげる ふかめる		
	※	出会いを伝え、出会いを生み出す—インターネットのこれから		
	※	くらしとエネルギー		
	※	環境家計簿をつけてみよう		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
4 月	※	わくわくどきどき 社会科って楽しいな	●社会科学習を進めるうえで基礎・基本となる調べ方・学び方の方法を学習し、問題解決的学習の進め方を理解する。	作成のポイント 子どもたちが学習の折に触れて、冒頭のこのページに立ち返ることができるようにしたい。
	※	歴史の中の子どもたち	●各時代の子どもの様子や活動、遊びを示した図版や写真資料から、歴史をより身近なものとしてとらえ、歴史への興味・関心をもち、参加意識を高める。	
	68	1 日本の歴史 (P10～123)	単元目標 先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心をもち、主な歴史事象について理解を深め、日本の歴史や伝統を大切にしようとする心情を育てる。 〔指導要領内容(1)〕	
	(1)	大導入(P10～11)	●写真を見て話し合い、これから学ぶ日本の歴史について調べてみようとする意欲をもつ。	
	(2)	歴史をさぐるーわたしたちのまちから (P12～13)	●自分たちの地域に残る遺跡や史跡、文化財、博物館・資料館などを見学し、これからの歴史学習への意欲・関心をもつとともに、自分たちのくらしが歴史の上に成り立っていることに気づく。	作成のポイント 地域の歴史を探ることはすでに3・4年である程度行っている。ここでは、さらに一歩進んで当時の人々が何を願っていたのかなどを追究したり、調べたことを年表にまとめたりするなどして、歴史への関心を高めたい。
	(6)	1 米作りの始まりとくにの統一 (P14～23)	小単元目標 狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、稲作とともに人々の定住が進み、「むら」から「くに」をつくっていったこと、さらに、その中の大きな勢力をもった豪族が大和朝廷をつくり、日本の広い地域を支配したことが分かる。 〔指導要領内容(1)ア〕	【移行措置へのポイント】 現行の教科書は、稲作の始まりからであるが、P124～127には発展的資料として「日本にもゾウがいた」「縄文時代に栄えたむら」が掲載されている。「稲作が始まる前、人々はどのような生活をしていただろう」などと問題意識を喚起し、これらの資料に出会わせていくことなどが考えられる。
	導入	●吉野ヶ里遺跡の航空写真を見て話し合い、稲作の始まったところの様子について調べてみようとする意欲をもつ。	作成のポイント 写真などの資料から、当時の人々のくらしの様子に目が向くようにしたい。	
	米作りが伝わった	●菜畑遺跡の資料や稲作の復元模型などから大陸から米作りが伝わり、人々が定住して「むら」をつくるようになったことを調べる。		
	人々の間に役割のちがいが生まれた	●米作りによって、「むら」に指導者が生まれ、人々に役割の違いが生まれたことをとらえる。		
	むらからくにへ	●資料から、「むら」が結合して「くに」ができていったことや大きな力をもつ豪族が各地に現れたことをとらえる。		
	大きな古墳がつくられる	●古墳の規模や副葬品を調べるを通して、3世紀の末ごろから豪族が次第に大きな力をもつていったことを調べる。		
	くにのまとまり	●大和地方の強大な力をもつ豪族が「くに」をまとめていき、やがて日本の広い地域を支配していき、大和朝廷が成立したことをとらえる。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
5月		大陸や朝鮮半島の文化に学ぶ	●大陸から伝わった文化について調べ、その文化が日本のくにづくりを支えていったことをとらえる。	
	(1)	大昔の人々の食べ物 —孝さんの発表(P24)	●図書館で資料を集めるなどして、自分が興味をもった内容について調べ、発表する。	
	※	ひろば 土器を作ってみよう (P25)	●土器作り、火おこしといった体験学習を通して、当時の人々のくらしの様子をとらえる。	
	(9)	2 大陸文化に学んだ時代と日本風の文化 (P26～37)	小単元目標 大陸文化の摂取に関連する聖徳太子や聖武天皇の働きや大化の改新などの歴史事象を調べ、当時の人々が仏教の教えをもとに天皇中心の国家をつくりあげていったことが分かる。さらに貴族のくらしや寝殿造などを調べて、藤原氏を中心とした政治の様子や日本風の文化が生まれたことが分かる。 〔指導要領内容(1)イ〕	作成のポイント 中国の文化や政治の仕組みを導入していたことから、日本は古来より中国との結びつきが密接であったことに目が向くようにしたい。
		導入	●遣唐使船の図を見て話し合い、大陸との交流を基軸とした今後の学習へのめあてをもつ。	
		聖徳太子のめざした国づくり	●聖徳太子の政治の様子を十七条憲法や冠位十二階、遣隋使などから調べ、太子が仏教をもとに天皇中心の国づくりを進めたことや中国の政治や文化を取り入れようとしていたことを理解する。	
		天皇中心の国へ	●大化の改新について調べ、中大兄皇子らが中心となって蘇我氏を滅ぼし、天皇中心の国家の仕組みをつくったことを理解する。	
		にぎわう奈良の都 都のくらしを支えた地方の人々	●平城京の様子や農民のくらしについて調べ、都のにぎわいを知るとともに当時の一般の人々の厳しいくらしに気づく。また、このころ大陸の影響を受けた文化が生まれたことを理解する。	
		大仏づくりにたくした願い	●聖武天皇が発願した大仏造営について調べ、仏教を通して政治を安定させようとしていたことをとらえる。	
		遣唐使のはるかな旅	●遣唐使の役割、鑑真の日本渡来について調べ、朝廷が唐などの外国の文化を取り入れ、政治や文化に生かしていたことを理解する。	
	貴族がくらしした平安京	●平安遷都後の貴族たちのくらしの様子を寝殿造の建物や絵巻物などから調べ、政治の実権が天皇から藤原氏のような貴族に移っていったことをとらえる。		
	日本風の文化が生まれる	●儀式や行事などがくらしの中心であった貴族の生活の様子を調べ、貴族社会の中から日本風の文化が栄えていったことをとらえる。		
(1)	平安時代の貴族 —かおるさんの発表(P38)	●貴族の服装や屋敷など自分が興味をもった当時のくらしの様子について調べ、まとめる。		
※	ひろば 歴史新聞を作ってみよう(P39)	●日本書紀やその当時の食事について調べたことを、新聞のかたちでまとめて発表する。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
6月	(9)	3 鎌倉武士の時代と室町文化 (P40～53)	小単元目標 鎌倉幕府の成立、元寇や当時の人々のくらしについて調べ、貴族に代わって武士が政治の実権を握るようになったこと、農民や町人も力をつけてきたことが分かる。また、室町時代の代表的な建築物や絵画などを調べ、現代につながる新しい文化が生まれたことが分かる。 [指導要領内容(1)ウ]→[新指導要領内容(1)ウ、エ]	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「鎌倉時代」と「室町文化」に関する内容が分けて示された。さらに「内容の取扱い」では、歴史的事象を「我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮すること」という観点で示されている。これらをもふまえ、室町文化については、教科書P50～53の資料を十分に活用して、「今日の生活文化とのつながり」をとらえさせたい。また、平安時代の貴族文化、鎌倉文化と比較することで、それぞれの特色がより鮮明になると考えられる。
		導入	●武士の戦いの図を見て話し合い、武士が力をもった時代について調べていこうとする意欲をもつ。	
		源平の戦い	●貴族の藤原氏に代わり、武士である平氏が政治の実権を握り、その後源氏が平氏を破り、鎌倉幕府を開くまでの経緯を調べる。	
		武士の政治が始まる	●鎌倉幕府の政治の仕組みや、将軍と御家人の関係について、御恩と奉公を中心に調べる。	
		地方の武士の館を見よう	●貴族の館と武士の館を比べ、その違いや武士のふだんのくらしの様子をとらえる。	
		鎌倉文化とくらし	●資料から、当時の文化や庶民のくらしの変化をとらえる。	
		元との戦い	●元との戦いの様子を調べ、元寇によって幕府の力が弱まっていたことをとらえる。	
		今に続く室町文化	●建築物や絵画を通して室町文化について調べ、現代につながる文化が武士や民衆の間から起こったことを理解する。	
		農村のくらし 町の人々と祇園祭	●資料から、当時の村や町の人々が力をもつようになり、協力し合って暮らしていたことをとらえる。	
		(1)	今に生きる室町文化を体験しよう(P54)	
※	ひろば まちの古い道を調べてみよう(P55)	●地域に残る遺跡等を調べ、まとめる。		
6月・7月・9月	(13)	4 戦国の世の中から泰平の世の中へ (P56～79)	小単元目標 信長、秀吉から家康に至るまでの天下統一の過程を調べ、このころの様子が分かる。さらに、江戸幕府が参勤交代、鎖国政策、身分による支配などを通して体制を整えていったことを調べ、安定した体制のもとで、都市が発展し、新しい文化や学問が興ったことが分かる。 [指導要領内容(1)エ、オ]→[新指導要領内容(1)オ、カ]	
		導入 3人の一生を調べてみました	●写真や年表を見て話し合い、信長、秀吉から家康に至る天下統一の過程や江戸時代の様子について調べていこうとする意欲をもつ。	
		天下統一をめざす織田信長	●織田信長が勢力を拡大していった様子や、信長の考え方を調べる。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
		ヨーロッパとの出会い 豊臣秀吉の天下統一 平和な世の中へ—江戸幕府を開いた徳川家康 強まる幕府の力と大名 身分による支配 鎖国とキリスト教の禁止 江戸時代の村の暮らし 都市の発展—江戸と大阪 人々の楽しみ—歌舞伎と人形浄瑠璃 人々が楽しんだ絵—浮世絵 新しい学問と教育の広がりに	●鉄砲・キリスト教の伝来について調べる。 ●天下を統一していった秀吉が行った検地・刀狩の目的や朝鮮侵略について調べる。 ●家康が天下を統一するまでの過程や、江戸に幕府を開きその基礎を固めたことについて調べる。 ●参勤交代や大名の配置について調べ、江戸幕府は大名を厳しく統制して支配していたことをとらえる。 ●幕府の定めた身分制度による支配の様子を調べ、百姓や町人のくらしや、彼らとは別の身分に置かれた人々のくらしについて考える。 ●島原の乱や長崎の出島、朝鮮通信使について調べ、キリスト教の禁止や、鎖国などの対外政策について考える。 ●農村のくらしの様子について調べ、新しい農具が発明され収穫が上がっていったことや、ナタネや紅花、綿花などの商品作物が作られるようになったことをとらえる。 ●都市の発展について調べ、町人が力をつけたことをとらえ、さらに浮世絵または歌舞伎を通して、人々が親しみ、楽しんだ新しい町人の文化が生まれたことをとらえる。 ●国学または蘭学を通して新しい学問の広がりについて調べる。また、寺子屋や藩校を通して武士や町人の子どもたちの教育が盛んになったことを調べる。	
	(1)	伊能忠敬の日本地図—なつみさんの発表 (P80)	●伊能忠敬について調べ、まとめる。	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「信長、秀吉、家康の天下統一、家光による支配体制の確立」と「江戸時代の町人文化と新しい学問の成立」が分けて示された。 このことをふまえ、教科書P75～79の資料を十分に活用して、「歌舞伎、浮世絵などの町人文化」「国学や蘭学などの新しい学問」の成立という二つの歴史的事象それぞれをとらえさせたい。 その際、取り上げる人物は指導要領で例示された人物（近松門左衛門・歌川広重、本居宣長・杉田玄白・伊能忠敬）とともに、地域でこの事項と関連する人物の中から選択するようにしたい。
	※	ひろば 江戸のくらしからリサイクルを学ぼう (P81)	●江戸時代の生活をリサイクルの視点から調べ、まとめる。	
9月・10月	(17)	5 開国から世界の中へ (P82～111)	小単元目標 ペリーの来航と開国、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れて日本の近代化が進められたことが分かる。また、大日本帝国憲法の発布、条約改正、日清・日露戦争、科学や産業の発展などについて調べ、国力が充実していったことが分かる。さらに、日中戦争・太平洋戦争の様子について調べ、国内をはじめ、中国、韓国・朝鮮などアジアの人々に多大な被害を与えたことが分かる。 【指導要領内容(1)カ、キ、ク】→【新指導要領内容(1)キ、ク、ケ】	作成のポイント ペリー来航から終戦までは約90年であり、江戸時代の3分の1の短い期間である。こういった時間軸も考慮に入れて、この間の日本の急激な変化をとらえさせたい。 日中戦争・太平洋戦争や戦時下のくらしについては、教科書以外にも体験者の証言や記録を資料として用い、実感的にとらえさせたい。

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
		導入	●写真を見て話し合い、黒船来航により日本がどのように変わっていったかを調べようとする意欲をもつ。	
		世界に国を開く	●幕府が日米修好通商条約を結ぶまでの経過や、条約の内容について調べる。	
		江戸幕府たおれる—新しい時代を開いたわかい武士たち	●開国による急激な変化で世の中が不安定になった様子や、江戸幕府が倒されるまでの経過を調べる。	
		新しい政府が生まれる—明治維新	●明治維新について調べ、新しい政府が天皇を中心とした近代的な国家をめざしたことをとらえる。	
		「四民平等」と新しい身分	●明治政府が進めた改革の中で「四民平等」について調べ、実際には、差別が温存され助長されていたことをとらえる。	
		文明開化—新しい生活、新しい考え方	●資料をもとに、開国とともに欧米の考え方や文化、技術が取り入れられ、広まっていった様子を理解する。	
		新しい国づくり—人を育てる、産業をおこす	●資料をもとに、明治政府は欧米の国々に追いつくため、「富国強兵」の政策を進めたことを理解する。	
		広がる政府への不満	●政府の富国強兵をめざした改革と、それに対して不満をもった人々の一揆や反乱について調べる。	
		自由民権運動 議会政治の始まりと大日本帝国憲法	●自由民権運動が高まる中、政府が憲法を制定し議会を開く過程と、憲法の内容や帝国議会、選挙の様子について調べる。	
		条約改正	●ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を望む声が当時の国民の間で広まったことに気づくとともに、条約改正が達成されるまでの経過を調べ、日本が国際的な地位を認められたことをとらえる。	
		日清・日露戦争	●日清・日露戦争の経過を調べ、日本が大陸へ進出しようとしていたことをとらえる。	
		韓国併合—韓国を植民地とする	●日露戦争後、韓国を併合した日本が行った政策について調べ、それに対し韓国の人々が強く抵抗したことを理解する。	
		世界に羽ばたいた科学者たち	●このころ科学や文化の面で、さまざまな日本人が活躍したことをとらえる。	
		産業の発展と民主主義の高まり	●このころの産業について調べ、富国強兵政策により工業が発展してきたことや、発展の陰に労働者や農民の苦しい生活があったことを理解する。また、「全国水平社」運動や女性の地位向上運動、普通選挙運動などについて調べ、民主化の動きが活発になっていったことをとらえる。	
		戦争の時代へ 大陸へ向かう日本	●戦争当時の写真や年表などから、長く続いた戦争の様子の様子について調べようとする意欲をもつ。	
		広がる戦争—中国からアジア、太平洋へ	●日本が大陸に進出し、中国との間に戦争を起こし、戦争を拡大していった経過と様子について調べる。	

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
[上巻]				
10月・11月		戦争中の国民のくらし 戦争に敗れる (1) 戦争中の子どもたちのくらしの様子を調べよう(P112) ※ ひろば 人物事典を作ってみよう(P113)	●資料をもとに戦争中のくらしについて調べるとともに、戦争の拡大につれて、日本やアジアの人々が苦しい生活を強いられたことを理解する。 ●敗戦に至るまでの都市への空襲や、沖縄戦、広島・長崎への原爆投下について調べ、人々が受けた大きな被害について理解する。 ●身近な地域の中で、戦争を体験した人たちの話を聞いてまとめる。 ●江戸時代から明治にかけて興味をもった人物について詳しく調べて、事典を作る。	
	(6)	6 わたしたちの時代へ(P114～122) 導入 戦後の改革 日本の独立と国際社会への復帰 戦後の発展とくらし 世界の中の日本 ※ ひろば 日本の歴史を学んで(P123)	小単元目標 戦後、日本は民主的な国家として新たに出発し、経済成長を遂げて豊かな国へと変わっていったこと、その一方で近隣諸国との政治的、経済的関係の改善、国内では公害などさまざまな問題を抱えていることが分かる。 [指導要領内容(1)ク]→[新指導要領内容(1)ク、ケ] ●敗戦後の写真を見て話し合い、戦後、人々の生活がどのように変わっていったかを調べていこうとする意欲をもつ。 ●戦後に行われた農地や教育、選挙制度の改革、新たに施行された日本国憲法について調べ、日本が民主国家をめざして歩き始めたことを理解する。 ●戦後の世界の動きや朝鮮戦争、日本が独立して国際社会へ復帰していった経過などを調べることを通して、未だに解決されない問題も残っていることに気づく。 ●東京オリンピックのころの様子を調べ、日本が高度経済成長の中で、近隣諸国との関係を修復していった様子をとらえる。 ●歴史学習を通して感じたことを作文に書き、自分たちのこれからの社会について考えたり、話し合ったりする。	作成のポイント 戦争が終わった後の日本の様子を写真や映像資料をもとにじっくり見てみる。その中にいる子どもたちの姿は、実は自分たちの祖父母や父母の過去の姿と重なっていることに気づくようにしていきたい。また、当時の人々は、これからどんな日本にしていこうと思っていたのかを考えながら学習できるようにしたい。
	※	ひろげる ふかめる 日本にもゾウがいた 縄文時代に栄えたむら—三内丸山遺跡 和時計とからくり人形 ユダヤ人たちの命を救った日本の外交官、杉原千畝 国際的に活やくした物理学者、湯浅年子		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
		※ わくわくどきどき 社会科って楽しいな	●政治の働きや世界の様子について関心を持ち、さまざまな方法を用いて問題解決的に調べようとする意欲をもつ。	作成のポイント 子どもたちが学習の折に触れて、冒頭のこのページに立ち返ることができるようにしたい。
		※ 世界の国会議事堂，世界の子どもたち	●世界の国会議事堂や行事を楽しむ子どもたちの写真から，政治や世界の国々の様子について関心をもつ。	
11月・12月	15	2 わたしたちのくらしと政治 (P10～35)	単元目標 政治の働きについて調べ，政治が国民生活の安定と向上に役立っていることに気づくことができる。さらに，現在の日本の民主政治が日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解できるようにする。 〔指導要領内容(2)〕	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、「身近な公共施設の建設」が、「社会保障」という文言に変わっている。 「社会保障」としては、「高齢者や障害者の介護」「医療の充実」「子育て支援」などについて，地方公共団体が，地域の実情や人々の願いを取り入れて，必要な施策を決めて国と協力して取り組んでいる具体例を扱うことが想定されている。これらを踏まえ，自分たちの身近にある，地域の人々の願いが実現した具体的事例を取り上げて学習することを意識したい。計画案から始まって，実現されるまでの経過について，子どもたち自身が調査したり，資料にまとめるなどの活動に取り組みせたい。
	(1)	大導入(P10～11)	●写真を見て話し合い，安定した社会や住みよい環境づくりに大きなかわりをもつ政治の働きについて，関心をもつ。	
	(9)	1 住みよいくらしと政治の働き (P12～25)	小単元目標 身近にある公共施設の建設やその運営は，地方自治体や国が住民の願いを取り入れて進めていることや，選挙，国会，内閣などについて調べ，政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。 〔指導要領内容(2)ア〕	
		地域ケアプラザって，どんなしせつなのだろう	●身近な公共施設である地域ケアプラザに興味をもち，調べる意欲をもつ。	
		地域ケアプラザ見学の計画を立てよう	●資料を調べて分かったことなどをもとに，地域ケアプラザの見学計画を立てる。	
		地域ケアプラザ見学	●見学したり，インタビューをしたりして，地域ケアプラザが地域の人々にどのように利用されているかを調べる。	
		市民の願いを実現する	●地域ケアプラザがどのようにしてつくられたかを調べてまとめ，区役所や市役所，住民，国や県庁とのかかわりをとらえる。	
		人々の願いを実現する政治の働き	●これまでの学習で分かったことや考えたことを話し合い，国の政治に関心をもつ。	作成のポイント 国民の政治に対する願いを手がかりにして，自分や自分の身近な人の願いなどがどのように実現されるのかを調べてみたいという意欲がもてるようにしたい。

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
1 月	(4)	国の政治の仕組みは、どうなっているのだろう	●国会や裁判所、選挙などについて知りたいことや興味のあることを話し合い、調べ活動への意欲を高める。	【移行措置へのポイント】 新指導要領では、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、および国民の司法参加について扱うことが示されている。「三権分立」についてはP25の資料を十分に活用したい。「司法参加」については、P24の資料などに補足するなどして、国民が裁判に参加する裁判員制度（2009年5月開始）にふれ、法律に基づいて行われる裁判と国民のかかわりについて考えさせたい。
		学習の計画を立てよう	●選挙の仕組みや国会の働き、内閣の働き、裁判所の働きなど国の政治の仕組みについて調べ、発表する計画を立てる。	
		選挙の仕組みを調べた真さんのグループ	●国民が政治に参加していくうえで選挙権が大切であることや、選挙の仕組みについて調べる。	
		国会の働きを調べたなつみさんのグループ	●国民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしている国会の仕組みや仕事について調べる。	
		内閣の働きを調べた孝さんのグループ	●内閣の働きと仕組みを調べ、内閣が国の政治を進めていることを分かりやすくまとめる。	
		裁判所の働きを調べたかおるさんのグループ	●裁判所が人権を守るために大切な働きをしていることを調べる。	
	発表し合ったことをまとめよう	●国の政治の仕組みについてまとめ、三権分立の仕組みを理解する。		
	(4)	2 暮らしの中に生きる憲法 (P26～33)	小単元目標 日本国憲法の主な内容や国民生活とのかかわりについて調べ、日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の三つを柱としていることを理解する。 〔指導要領内容(2)イ〕	作成のポイント 日本国憲法の前文に書かれていることを手がかりにして、また、子どもたちの生活とかかわりのある事柄を中心に学習を進め、憲法が自分たちの身近にあることに気づくようにしたい。
		日本国憲法の三つの柱	●日本国憲法の前文を読み、日本国憲法の三つの柱について調べていこうとする意欲をもつ。	
		学習の計画を立てて、調べよう	●「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」「権利と義務」について調べ、それぞれの重要な働きについて理解する。	
	国民主権について調べたなつみさん	●日本国憲法の三つの柱の一つである国民主権がどのように実現されているかを調べる。		
	基本的人権の尊重について調べた孝さん	●基本的人権を尊重する考えが、日本国憲法や自分たちの暮らしの中にどう表されているか調べる。		
	国民の権利と義務について調べた真さん	●日本国憲法に記されている国民の権利と義務について調べる。		
	平和主義について調べたかおるさん	●国民の平和への願いと日本国憲法との関連について調べ、平和主義の意味を考える。		
	(1) 新聞にまとめました (P34)	●調べて分かったことや考えたことを新聞のかたちにまとめ、読み合って、考えを深める。		
	※ ひろば 体験して、考えてみよう (P35)	●アイマスク体験や車椅子体験を通して、だれもが住みやすい社会について実感的に考える。		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
1 月 ・ 2 月	17	3 ともに生きる地球 (P36～67)	<p>単元目標 日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べたり、日本の国際協力や国際交流の様子、国際連合の働きなどを調べたりすることを通して、世界の人々とともに生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることや、世界平和をめざすうえで日本が重要な役割を担っていることを考えることができるようにする。 〔指導要領内容(3)〕</p>	<p>作成のポイント 今まで学習してきたことをもとにして、世界の国々とのかわりについて調べるようにしたい。国際社会に生きる人間として、互いの生活の様子や考え方を理解し合えるようにしたい。また、互いの交流が深められるような工夫をしていきたい。</p>
	(1)	大導入(P36～38)	<p>●地球や世界の子どもたち、世界の風景の写真を見て、自分自身が世界の人々とともに生きていることをとらえ、同じ地球に生きる者として、世界と日本の結びつきや世界の抱える問題について考えていこうとする意欲をもつ。</p>	
	(7)	1 世界と結びつく日本 (P39～53)	<p>小単元目標 日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べ、世界にはさまざまな文化や習慣があり、世界の人々がともに生きていくためには互いを理解し合うことが大切であることに気づくようにする。 〔指導要領内容(3)ア〕</p>	
		世界の国々について調べよう	<p>●日本とつながりの深い国から1国を選び、計画を立て、その国の人々の生活や文化、日本とのつながりについて調べて発表しようとする意欲をもつ。ここでは日本と古くからつながりの深い中華人民共和国、たくさんの移民が暮らすブラジル、最大の貿易相手国であるアメリカ合衆国、石油輸入でつながりの深いサウジアラビアを取り上げ、調べることで、それぞれの国への理解を深める。</p>	
		歴史的なつながりの深い国 中華人民共和国	<p>●日本と中国の結びつきや、中国の人々のくらしの様子を調べ、まとめる。</p>	
		サッカーのさかんな国 ブラジル連邦共和国	<p>●日本とブラジルの結びつきやブラジルの国土、人々のくらしの様子などについて調べ、まとめる。</p>	
		貿易でつながりの深い国 アメリカ合衆国	<p>●身近なアメリカ製品や文化を調べたり、アメリカの人々のくらしの様子などを調べたりして、まとめる。</p>	
	石油産出を生かした国 サウジアラビア王国	<p>●サウジアラビアの自然や人々のくらしについて調べ、まとめる。</p>		
	いろいろな国を調べて分かったことや感想を発表し合おう	<p>●調べた国について、工夫してまとめて発表し合い、分かったことや考えたことを話し合う。</p>		

月	時間	単元名・教材名	指導のねらいと主な学習活動	指導計画作成のポイント
〔下巻〕				
	(5)	2 世界の平和と日本の役割 (P54～61)	<p>小単元目標 日本の国際協力活動やユニセフの活動を具体的に調べ、世界の抱える紛争や飢え、環境問題などを解決するために、国際連合が大切な働きをしていることや、日本が重要な役割を担っていることを考えることができるようにする。 〔指導要領内容(3)イ〕</p>	<p>作成のポイント 世界で起きているさまざまな問題は、日常的に新聞やテレビの報道によって伝えられてくる。それらの情報をもとにして、世界のさまざまな問題を調べたり、報告したりしていかうとする意欲がもてるようにしたい。また、実感的に考える手がかりとなるように、協力活動を行っている人と交流する機会を設けるなどの工夫をしたい。</p>
		<p>世界の問題はわたしたちの問題</p> <p>ユニセフ(国際連合児童基金)の活動</p> <p>世界に果たす日本の役割はなんだろう</p> <p>一人ひとりの力を世界へ</p>	<p>●資料をもとに、世界で起こっている紛争や飢え、環境問題などについて調べ、それらを解決するための取り組みに興味をもつ。</p> <p>●ユニセフやユネスコについて調べることを通して、平和な国際社会の実現につとめる国際連合の働きを理解するとともに、自分たちにできることを考える。</p> <p>●資料を見て、さまざまな問題を解決し、平和な世界をつくるために、日本が大きな役割を果たしていることを理解し、どのような国際協力活動が行われているかを調べる意欲をもつ。</p> <p>●青年海外協力隊やNGOの活動を調べ、協力活動に取り組む人々の生き方に触れるとともに、日本が世界の中で果たす役割について考える。</p>	
2月・3月	(3)	3 ともに生きる世界をめざして (P62～65)	<p>小単元目標 スポーツや文化を通じた国際交流について調べ、国際交流がともに生きる世界をつくるために大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。 〔指導要領内容(3)イ〕</p>	<p>作成のポイント 自分たちの身近なところにもスポーツや文化を通しての国際交流があることに気づくようにしたい。</p>
	(1)	<p>スポーツの交流から心の交流へ</p> <p>たがいを知るために</p> <p>ともに生きていくための第一歩</p> <p>この地球に生きるものとして、わたしたちにできること(P66)</p> <p>※ ひろば 卒業前に意見文を書こう (P67)</p>	<p>●オリンピックの歩みや意義、サッカーのワールドカップなど、スポーツを通じた交流活動について調べ、スポーツが互いの理解を深める大きな力となることに気づく。</p> <p>●外国の人々とのさまざまな文化交流について調べ、国際交流の大切さを理解する。</p> <p>●自分はどんな交流活動をしたいか考え、世界の国々と友好関係を保つ方法について話し合う。</p> <p>●ともに生きる地球をつくるために、自分にできることを考える。</p> <p>●学習してきたことをもとに、世界で起こっているさまざまな問題の解決のために、自分たちに今、できること、10年後ならできそうなことを考える。</p> <p>●一つの地球で、世界の人々とともに生きていくためにできることを考え、意見文を書いて発表する。</p>	
		<p>ひろげる ふかめる</p> <p>※ 軍隊をもたない国、コスタリカ共和国</p> <p>※ 未来をつくる 地球温暖化とわたしたち</p> <p>※ 子どもの権利条約について考えよう</p> <p>※ 世界のこにちは</p>		

※ 新学習指導要領での配当時間の変更

	(現)	(新)	
3年	70	70	±0
4年	85	90	+5
5年	90	100	+10
6年	100	105	+5

平成 21・22 年度 小学校「社会」移行措置資料

平成 20 年 10 月 30 日発行

発行所 光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎 2-19-9

〒141-8675 TEL03-3439-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>
